



# 我余

---

:Re

Fate/GrandOrder

GILGAMESH

OZYMANDIAS

Enio NATO

R18

彼こそ、創造の他ならない

# 君臨

太陽神の息子、地上の慈父

# 降臨





---

---

神の酒	・・・ 4
吹雪の夜に	・・・ 3 3
深き湖沼へと至る食欲のソルナ	・・・ 6 1
宵に酔いて名を紡ぐ	・・・ 9 7
無花果と魚の骨とファイユームの赤ワイン	・・・ 1 2 0
九天の果てに望むは金色の夢	・・・ 1 3 7
香の偽証	・・・ 1 7 3
しじまに秘めた陽、迎えたる眩き黄金	・・・ 2 1 2
HAPPY-OREYO	・・・ 2 6 4
指令紋章	・・・ 2 7 2

---

---

- キャラ・ストーリーに関して自己解釈有
- カルデア召喚システムに関して自己解釈有
- 叙事詩に関して自己解釈有
- 史実に関して自己解釈有

全てご承諾の上お読み頂けますようお願い致します。

# 神の酒

---



あちゃー！



貴様らは  
下がっておれ！

下らんツ

…不覚…ツ  
まさかこんなに数が  
いるなんて

皆大丈夫!!  
今レイシフト準備を  
しているから  
持ち堪えてくれ!

オジマン  
ディアス殿  
お一人では  
無茶だ!

今は主殿を護り  
レイシフトを待ち  
ましょう

…ちよつと…  
やばい…かねえ



数は…ふむ  
20と言った所か

何

喧しい  
口を閉じて  
見ている

全て焼き尽くせば  
良いだけの事



二人共  
そこから絶対に  
離れないで!

凄熱量  
集中している!

衝撃に備えて!!

全能の神よ!  
我が業を見よ

そして  
平伏せよ

顔のない王!!

我が無限の光輝



太陽は  
ここに降臨せり！

ラムセウム・テンテイリス  
光輝の大複合神殿！！！！

モオ

うっわ...



やっぱ  
すげえツすわ…

しょえ〜

ここら一帯の  
物の怪が  
消えてしまった…

魔力濃度をあげて  
宝具の範囲を  
広めたんだ

彼がその気になったら  
世界を火の海に  
沈めるなんて  
造作も無い事だよ

感謝します  
オジマン  
ディアス王

でもお身体に  
相当な負担が  
あったと思います

魔力の減少が  
著しい

この程度  
容易き事

牛の子よ  
貴様怪我は？

え？あ…

いえ

大丈夫です  
オジマンディアス殿

要らぬ

戻ったら  
すぐに対応を

誰に物を  
言ってるか  
よく考えよ

ならば良い

急ぎ支度せい！  
王の凱旋よ！

ハ

ハイッ！！









自身の力も扱えずに  
意識を失うなど  
雑種と変わらん

失望したぞ  
太陽の王など  
嘲笑わせるわ

貴様…  
改めよ黄金の!

断る

何故に  
我に劣る雑種に  
正さねばならぬ



王たる王の  
我に並ぶ者は  
存在せぬがな

…まあ  
もつとも



黙っていれば  
貴様……ッ

よくも  
このフアラオに  
不敬を…ッ!

何だ?  
何か言い返さぬのか?



不愉快だッ!!

!



待て  
太陽の

誰の赦しを得て  
立っているのだ

何だッ!



何だと?



それに…貴様  
謝儀のひとつも  
無いのか?



はッ  
よく言うわ

貴様財の全てを  
懐に宿したと  
豪語しておいて

まだ望むのか  
強欲な男よ

良い  
許す

申してみよ  
このフアラオに  
何を望む?



そのよく語る  
口を寄越せ



貴様馬鹿を言うな  
軽視に値するぞ!!!

おお  
予想通りの  
反応だな



はあッ  
!!!!?



気になって  
いたのだ

な...ッ

太陽を自負する  
王の味とやらは  
どんなものか

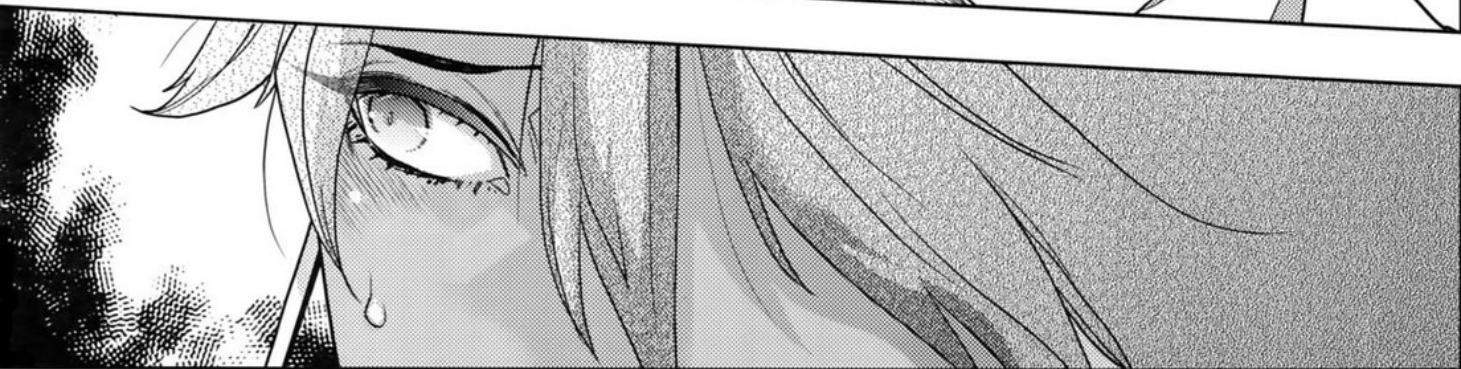
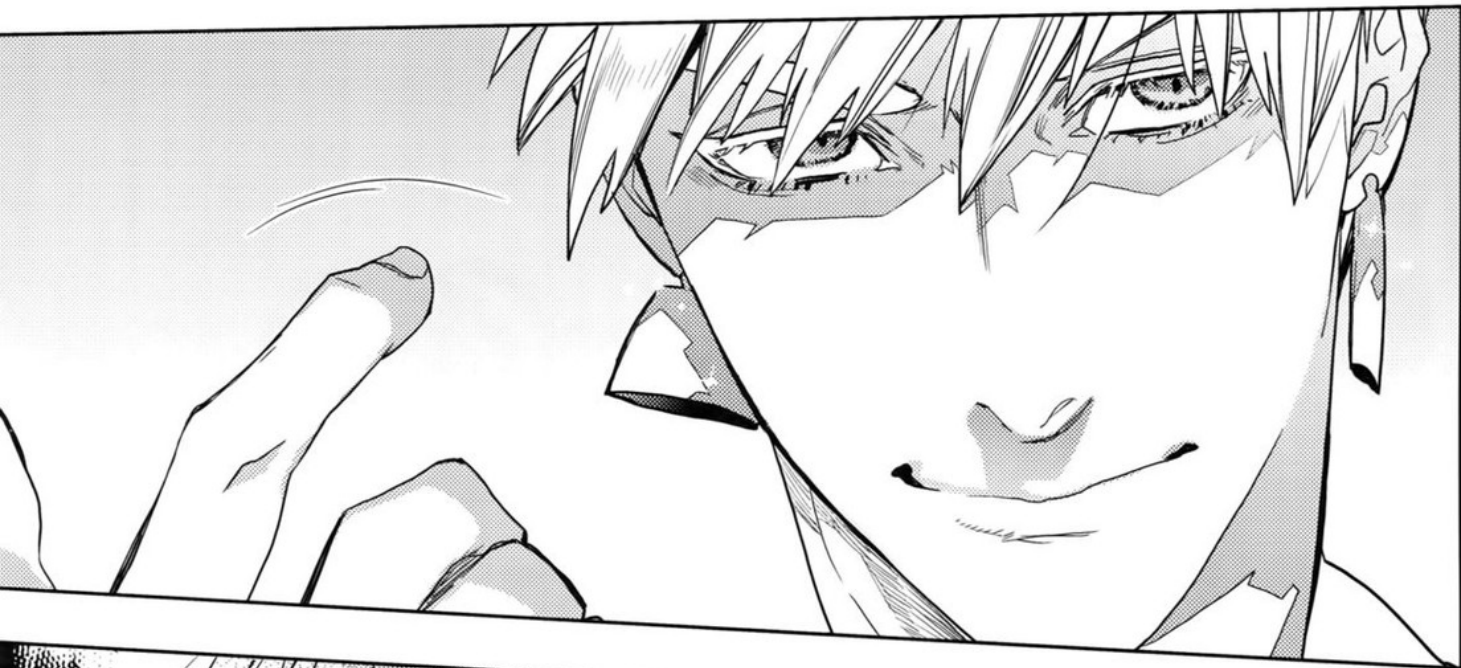


オジマンディアス



万全ならば今すぐ  
こやつを王の座を  
おとす  
く...ッ  
灼き尽くして  
やれぬ...ッ

寒い...  
上手く  
考えられん...  
カア  
カア







何を焦る

疾く  
交わせ

分かってる！  
黙っている！



私の赦しが  
出るまで離れるな

違えるなよ



ハズレ  
ミステリ

ッ  
……ッ



……  
熱……？

お  
……

香……？

……甘……？



ん……

ふ……ッ

……  
ン

ッ  
……

……  
ン

ッ  
……



……  
ン  
ッ  
!!!?



余程空の身体  
だったのだな



貴様…ッ

ははははは!!

な

何をしたッ?!

これは…

これは何だ!!

謀ったのか?!

何を仕込んだ!!!

やっと  
勘付いたか

どうだ

熱が戻って  
来ただろう



印度<sup>インド</sup>に伝わる  
神酒だ

英雄共が  
飲んでいた遺物よ  
説では不死すらも  
願えるとか

…我にはもう  
無用のものだど放って  
おいたのだがな



何だ…?

身体が熱い

内側が  
燃えるようだ

これには厄介な  
効能もあってな

…だがな

…は…?

はッ

え…

何…を  
言っているのだ…?

…何…



途方もない  
狂ったような  
劣情が湧き上がる

芯から  
熱くなるのだ

熱...い  
身体...



奴ら畜族らしい  
品だとは思わんか

はあ

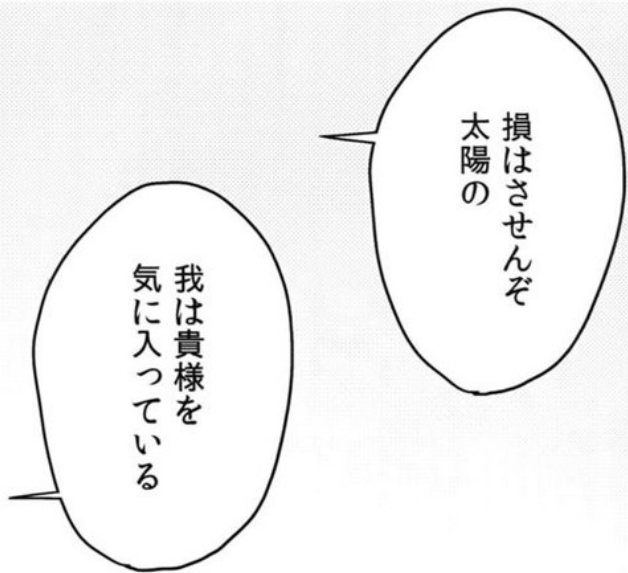
貴様  
最初からこの  
つもりで...

そうでもしなければ  
貴様は  
施しを受けんだろうが  
無理矢理飲ませるの  
骨が折れる

しかし...ッ

これ...

だ、駄目だ  
やめろ  
黄金...







くす

ッ!

実に良いな

我好みだ

余の玉体に  
触れる事の得難き光輝

忘れるでないぞ

黄金の!

んッ

名を呼ばんか

興が削がれる

は...あ

も...も...も...と  
顔をよく見せよ  
黄金の

ん...

...



これ以上…はッ

はあッ

耐えられぬ  
恥辱だ…ッ  
はッ  
や…やはり  
もう…ッ  
はあ

はッ…

まだ抗うか  
耐える姿を  
見ているのも  
また良いがな



この身体が  
子を200も  
残したのか

今それを  
言うなッ  
!!!!!!



それにしても

んッ

…いずれにしろ今更  
もう止めるなどと  
戯言は聞かんぞ

言っただろう  
気になっていたらと

オジマン  
ディアスよ

この吸い付く肌が  
どうなるか



今は  
そればかりよ

ふッ……

ふッ

ふッ

ん…ッ



ま

ま…ッて

あッ

…堪らんな







己自身をよく見ろ

はッ

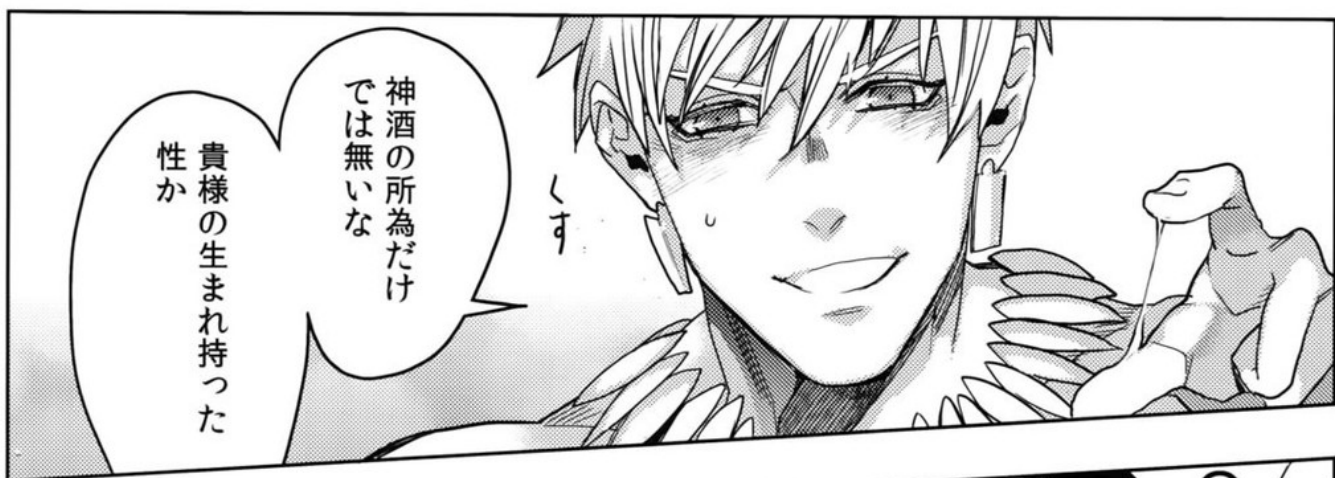
あ…ッ

はあッ  
よせ…ッ

……ッ

はあ

もう滴らせおって



神酒の所為だけでは無いな

貴様の生まれ持った性か

くす



ちよ…

ちよっ…

はッ

ま、まて  
黄金の  
はあ

だから名を呼べ

もう言わんぞ

ギル…

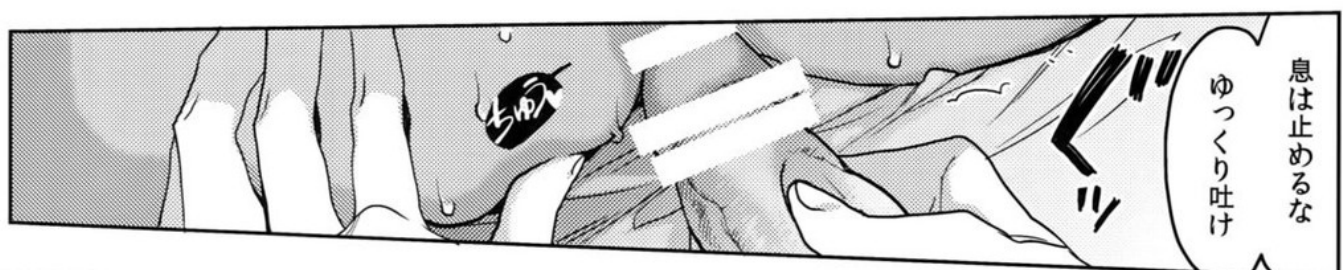
待て

それが余に…?

はッ  
はッ

それ以外何があるのだ

ととと



あ…ッギル  
ゆっくろり…

はッ  
はッ

はッ  
はッ

くるし…

見事な眺めだな

わかるか？  
貴様の…

我のを  
離さないでは  
ないか





はっ...湯に...入りたい...



あ...♡♡♡

ギル...



おはっ!?



はっ  
……?

オジマン  
ディアス

我は  
イイだろ?

ちゅっ♡

っっっ♡



くす



キラ

ふふん

キラ

……



みん。

余は  
イイだろ?



…名を呼べ

あ…ッ  
黄金…  
…の…ッ

ふっ

はあ…ッ

あッ

その後も。

あッ

あッ

はんあッ

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡



ん

顔…♡♡  
顔見たい…♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

貴様の魔力は  
質が良くて好い

程よく甘く  
私の好みだ

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

## 神の酒

普段精神が余りに高潔で、肉体的にも強靱が高い人物が  
どうにもならない弱点や弱みがあると言うのが性癖なので  
事サーバント、と言うのは魔力枯渇がそれにあげられますが、  
且つ生前や伝承に伝わる魔道具聖遺物が関わるともう最高です。

中でも酔っ払う、霊基が著しく低下すると言うのが好きなので  
割と頻繁に酒関係は描いていたなと今になって思います。

酒の逸話は数多くあり、印度関係はそのものがもうずば抜けてるので  
扱いに我も困っていて欲しいなど。

あと何でかこのあたりは余の耳飾りは長く細ければ細い程  
良いと思ってたらしいです。







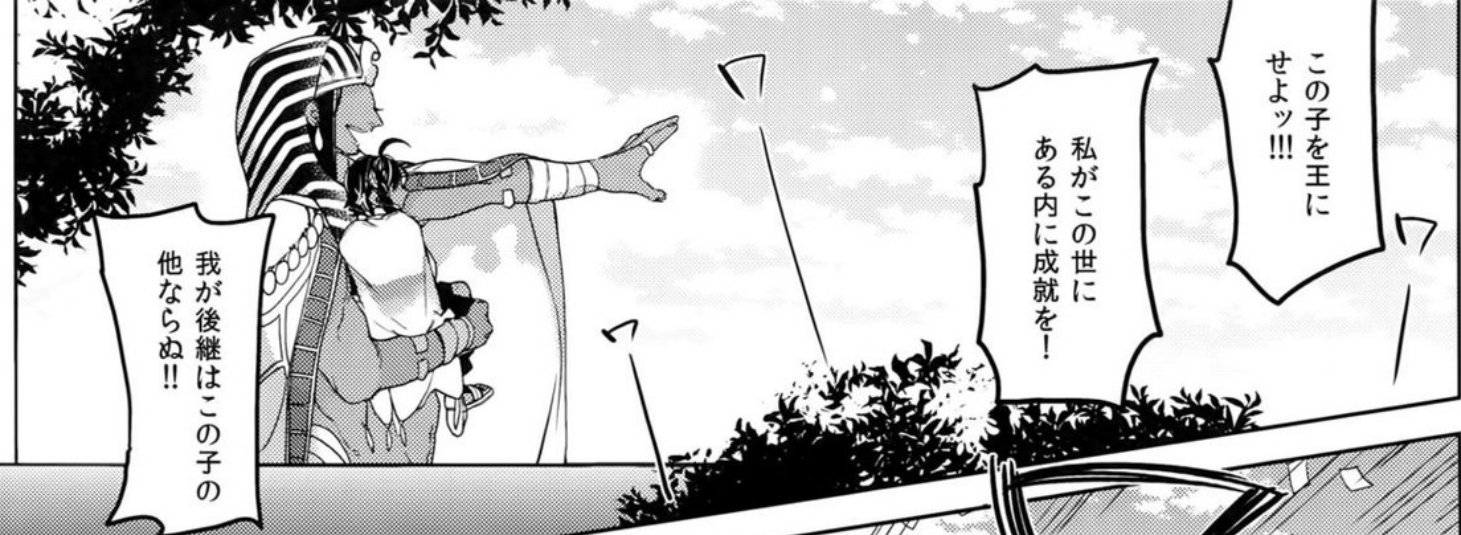
# 吹雪の夜に

愛する  
私の民よ！

子の余を抱く  
父の暖かさを  
覚えていて

我が願いを  
聞いて欲しいッ  
!!!!





與える者であれ





いつ見ても  
醜悪なものよ

未だ地を汚すか  
残滓の獣共め

いつか在ったかも  
知れぬ聖杯戦争など…

片腹痛いわ

其処に本来いるのは  
貴様ら紛い物ではないと  
まだわからぬか

修復なぞ我には  
興味が無いがな

いづれにしろ  
どうせ戦火の咎に  
飲まれた特異たる地

何処ぞが  
欠けようとも  
構わんな?

私の庭に  
断りも無く  
踏み入った事を

後悔しながら  
失せよ

己の血と涙で  
窒息するが良い

ギルガメッシュ王ーツツ!!!!

ギ

何だ医師か

喧しいッ  
次は無いぞ

次は  
無い!?

はあ!!

ヤッ

な



それはこつちの台詞  
ですよ王様!!

今は無いって  
言いました!?!

アーチャー特有の  
単独行動スキルは  
百歩譲って  
良しとするけど

どうかと  
思いますよ

僕はッッ!!!

突然巨大な魔力を感知  
したと思ったら  
まだ不安定な特異点F!?

そこで何しようと  
してたんですか!?

...



ド、ドクター

そ、そうだ

今はそんな事  
話している  
場合じゃない

いつ通信が途切れて  
しまうかもわからない

すぐに帰還を



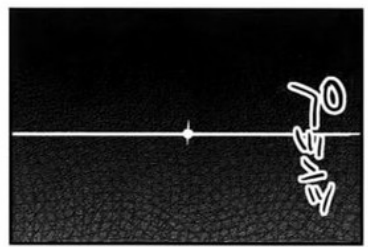
はあ...

とにかく  
戻ってきて下さい



……フン……

精々その仮初の地で  
満足しておけ



して何事だ



私の邪魔をしたのだ

相応の事態で無ければ  
万死を以て  
償うと思えよ

ゴオオオ

王様？  
もしかして  
体調悪い？

少し…顔色が  
良くない  
ようだけど

……あれ

散々勝手  
しておいて…

必要ない  
疾く要件を話せ

もしだったら  
霊基の  
チェックを…

あ、はい

外の磁場に異常が  
発見された

外の猛吹雪も  
それが  
原因だと思う

磁気嵐の類だろうから  
一過性のもので  
最悪の事態なんて事は  
有り得ないんだけど

乱れの振り幅が  
通常より大きくて  
時々計測器の数値が  
瞬間的に振り切れるんだ

この数値を保たれると  
通信はおろか  
レイシフトそのものに  
影響が出かねない

カルデアからは  
一步も出れないから  
外部からの観測は不可能

だから  
嵐が過ぎるのを  
待つか無い

もしかしたら  
中には不調が出る  
英霊もいるかもだしね

話はそれだけか  
下らん

磁場の乱れなどとうに  
気付いておったわ

我には何ら影響も  
無い事もな

え？

翌朝には安定する  
だろうけど今日は  
現時刻以降各自  
カルデア内にて  
待機をお願いします



はああああ???.???.???.???

ドクター!!

ドクター!!  
落ち着いて!

知つてたなら計測する  
教えてくれてもよか  
まあそうだよね王様位  
外的要因が  
影響  
僕らは  
出られないし動け  
所員はみんなのサポートの  
為だね  
毎日毎日ね



あの冬木はまだ  
不可解な  
部分が多くて  
もし何か  
知ってたら教えて  
欲しいのだけど

アイッ

さあな



……特異点Fに  
何かあるの?



まあ今に  
始まった事じゃ  
ないから良いで



それより  
ねえ王様



それしか  
出来ぬのだからな

貴様らは  
今課せられてる  
役目に励め

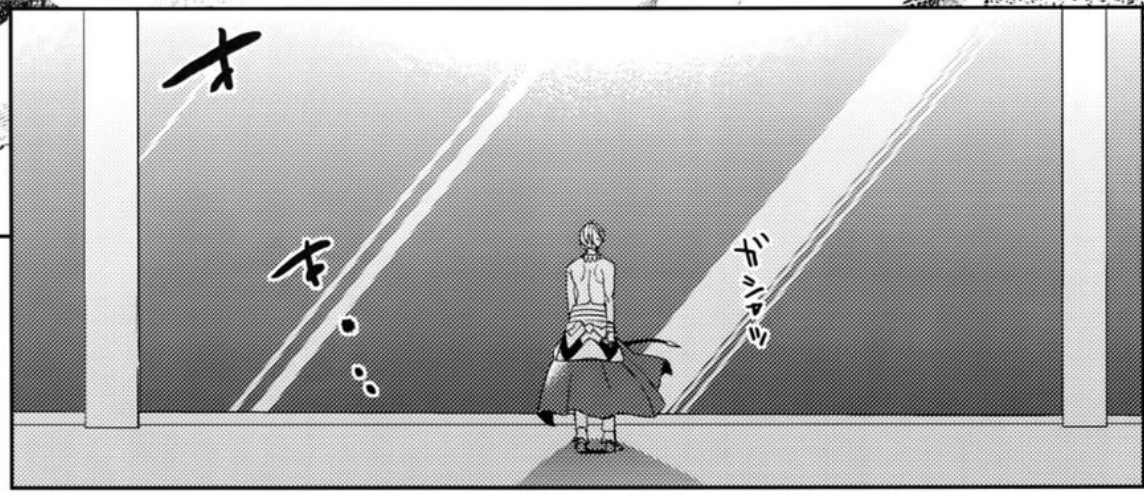
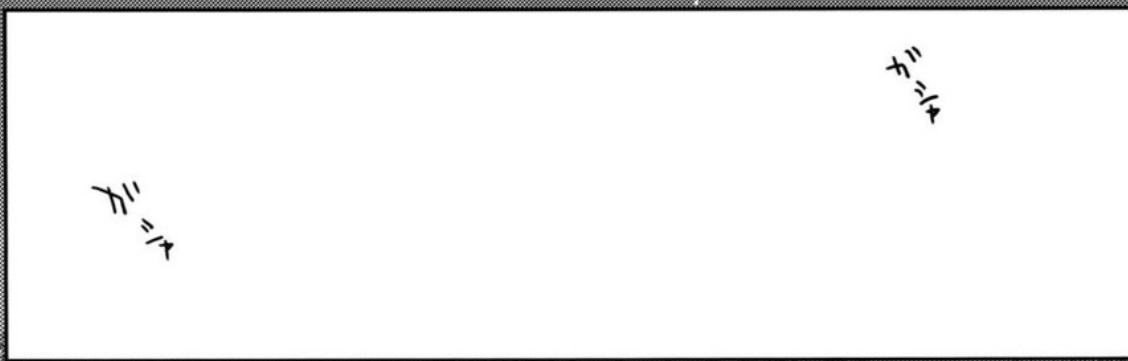


我は知る価値もない  
小汚い土地よ

余計な詮索に  
使えぬ頭を  
回すでないわ

王様の気持ちは  
僕らにはわからないねえ

今励まされた？

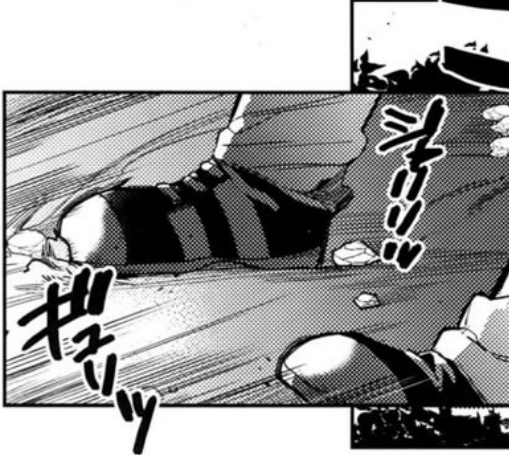




酷い夜だ

このままの日は

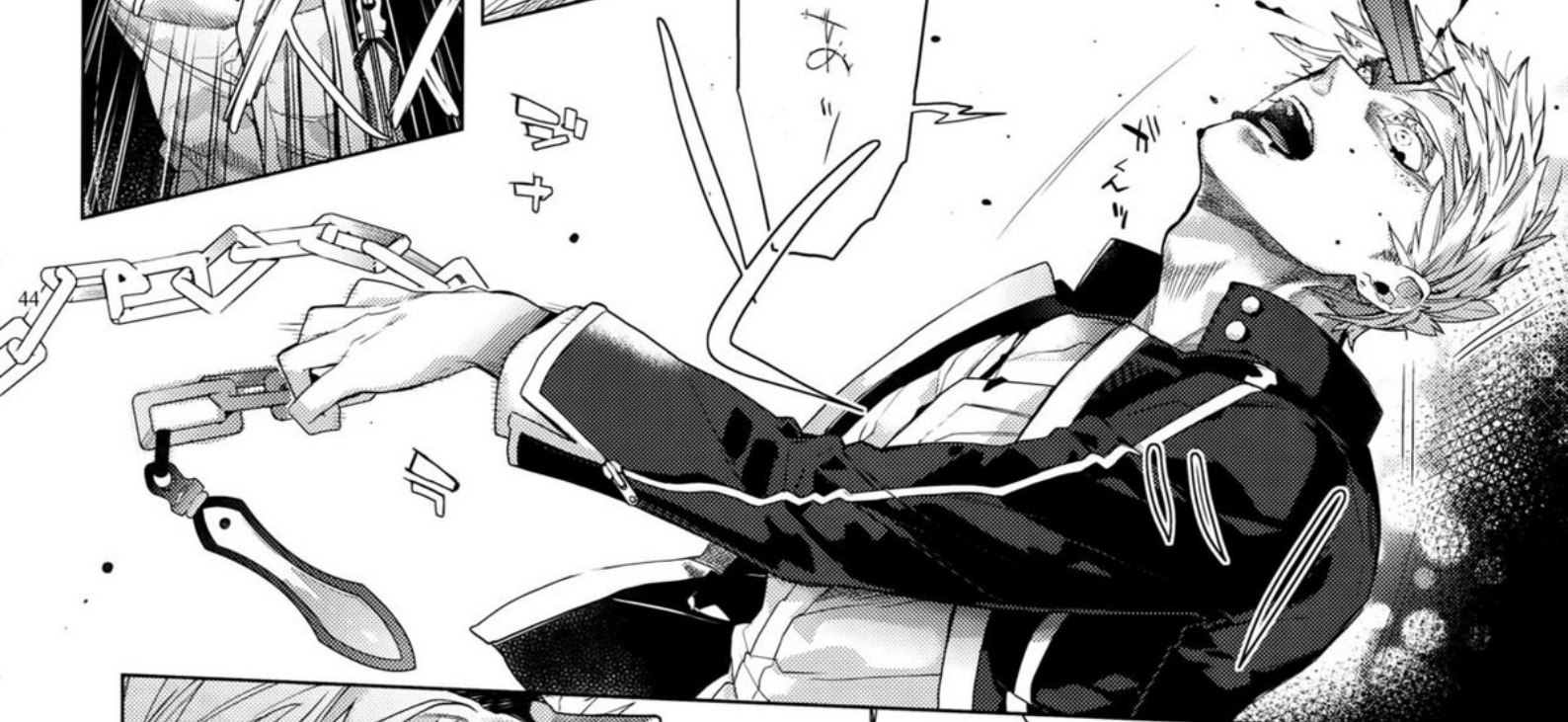
見る筈もない見たくもない夢を見る

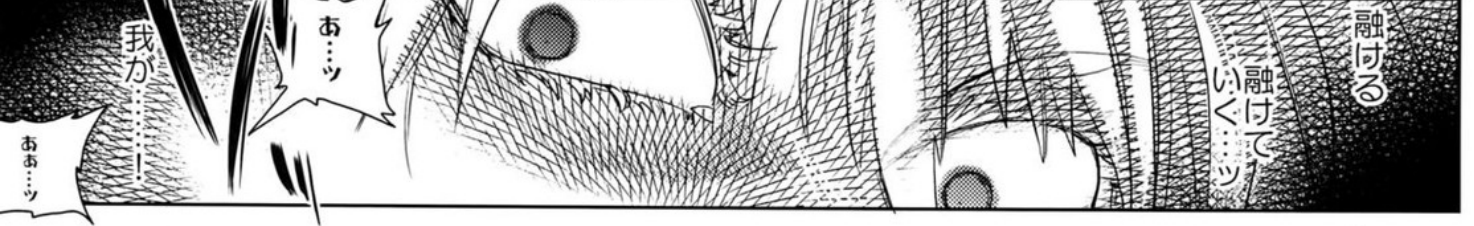


踏みとどまれよ  
下郎ッ!!!!

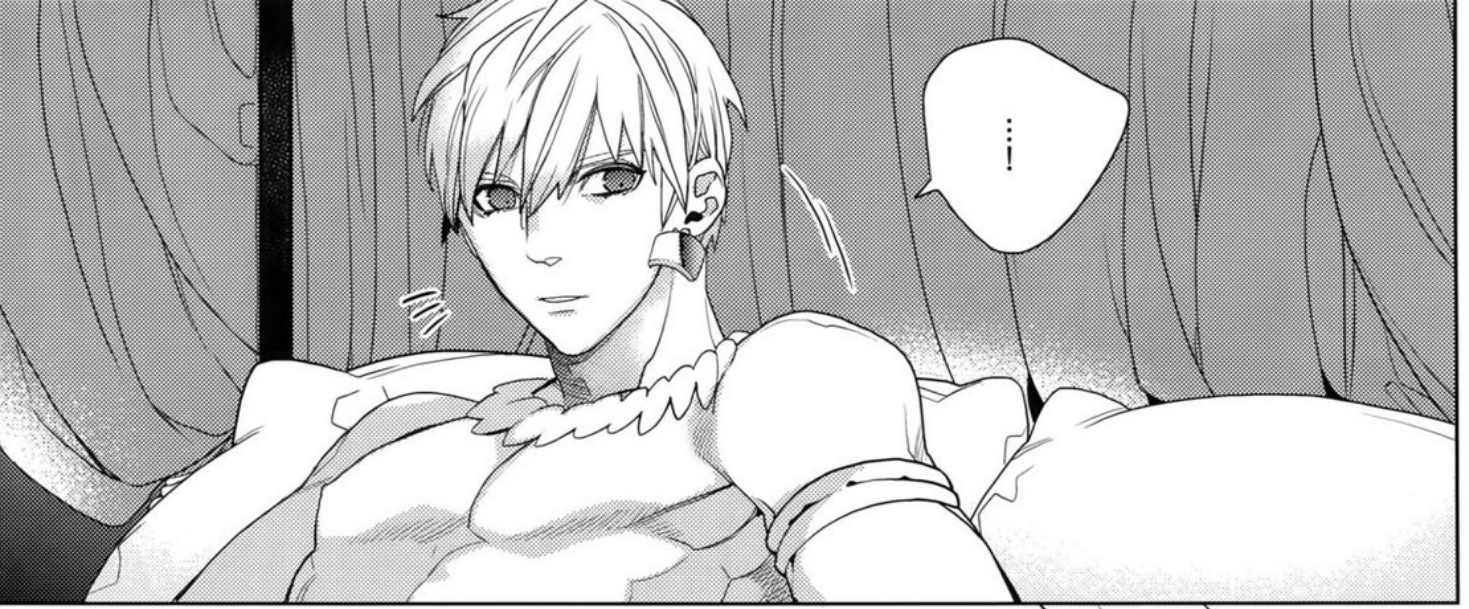


右に避ける









…夢見が  
悪かっただけで

気配にすら  
気付かぬとは

見せられた  
姿ではないぞ

相手が余で  
良かったな  
黄金の

臍氣に一度  
眼を開いたがな

迷う指先が余を  
掴んでそれつきりよ

今はこやつ  
の  
壮気も疲れるな…



きゅう  
覚醒めてくれて  
良かったわ



何

そなたの部屋の前を  
通りかかった時に  
外まで苦しげな声が  
聴こえてな

様子を見れば  
見るに耐えない  
呻吟であったぞ

声をかけても  
起きぬ

※苦しみ呻く事



ははははッ  
よせ称揚など!

何も要めて  
おらぬ…

違える王だとしても  
余は線引はせぬ  
恩愛は等しくあるからな

まして盟約相手と  
あれば無意識下の  
不敬も不問としよう

蓮の花の香りが  
妙に癖になる



随分と酷い  
夢だったのだな

生色を  
失っている

サーヴァントは  
夢を見ぬと言うが  
カルデアと言う  
異質な場所故か

何だ

それで我を  
嘲笑の種にでも  
するか



何か  
暖かいものでも  
用意しよう

今離すには惜しい



な……ッ

何を  
嫌味ッたらしい  
事を……ッ  
黄金のッ

そなた  
らしくない！  
やめよ！！

我らしさとは  
何だ  
何を識っている

小童風情が

では良い  
機会だ

理解を深めるか  
太陽の



つまらぬ時間を  
持て余しているのは  
お互い様だろう

貴様であれば  
私の相手にたりうる

何を…

……は？

どうしたのだ  
黄金の…

わからぬ訳では  
なからうに



音も無き夜に数が  
揃えばやる事など  
1つであろう？

自ら王の臥所に  
立ち入りそのまま  
去るなど巫山戯た事を  
抜かしてくれるな

今宵はまだ長い  
冷えた身体を  
暖めよと  
言っているのだ

……貴様

夢見の悪さに余を  
乱れた鼻扱いする気が

相手を誰と  
心得ての発言で  
あろうな

一度吐き出した  
言葉は血の膿となるぞ……

おい太陽の！

良いぞ！  
目が覚めたわ

貴様  
よもやと思うが

は  
ははッ

自身を娼婦や  
慰みもの程度だと  
思っているのか？

ならば  
それらしく  
抱いてやるぞ？

わ

離せッ!!  
余にそのような気は  
毛頭無いッ!!

不敬な!  
不愉快極まり  
ないわッ!

ほとほと  
その傲慢さには  
呆れ果てる

僅かばかりでも  
気にかけてやれば  
頭に乗りおって

あ…

誰が手を  
払う事を  
赦した

…ッの…ッ

いい加減に…ッ!!

…離れるな…ッ

トッ

おい…ッ

黄…  
金…の?

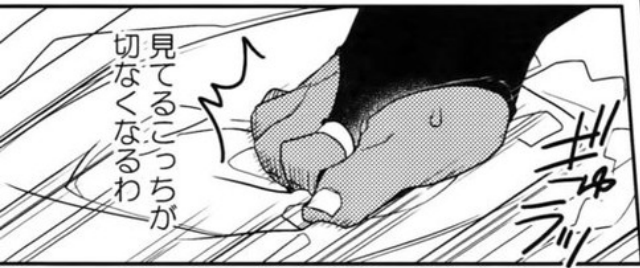
おい

ま…ッ

まて…

ンッ

シッ  
…ッ



見てるごっちゃんが  
切なくなるわ



余程の呪いがそなたの  
内に巣食って  
いるのだからな

冷たい...



自身でも気付いて  
いないのか

何と言っ  
表情をしているのだ

ちゅ

ッ

ちゅく

ちゅく

ふ...ッ



ははッ

ふははッ



それで余に

さ...ら...

すぎるか...ッ!



そなたは  
まるで腹を空かせた  
仔ライオンのようでは  
ないか!

黄金の



.....  
ハッ



……良い

ん…



余を失望させる  
事は許さぬぞ

今宵の遊びに  
付き合っつてやるわ

そなたが余を  
請うと言うのであれば  
この玉体に触れる  
権利を与えてやろう

カア…

…だがな



その割には

はっ…

あ



んッ

言うでは  
ないか



世の総てと果てを  
味わったのであろう？



……暖かい

心地よいな…

我が…  
請うだど？





はあ...ッ  
ん...♡

あつ

びしょ

♡  
ん♡

口の中...  
冷たくて  
心地が良い...

はあ

あ...♡黄金の...♡

そなた...  
吸差など...ッ

んう

♡  
ん♡

♡  
ん♡



はあ

まあだ...だ  
はあ 暫し我慢せよ  
ラーメス

もっと、  
ヨくなるからな



おっと...  
何を急いでいる

はあ

♡  
ん♡

♡  
ん♡

な...ッ

♡  
ん♡



これでは

余が欲している  
ようではないか

違う……

はっ



ん……ッ

うっ

うあ……っアアッ

エレン

エレン



はっ 少して良い

あッ ぎゅっ……ッ

はっ

駄目だ……  
今挿入られたら……ッ

たわけが

今更聞けぬ

ズズズ……

ズズズ……



!!

こやっが

こやっが余を  
求めたからであつて

待て……ッ

ま

エレン



随分ともう  
中が蕩けて  
いるではないか

吸い付いて貴様が  
我を欲しているわ

ち、ちが……ッ

あッ

ズズズ……  
ズズズ……  
ズズズ……  
ズズズ……





貴様が  
気に入った

実に  
良い

ラーメス  
!?



あなたが...

あッ  
ぼあ



余には...

貴様をモノに  
する

一夜などと  
言わぬ

ほー

はッ!?  
...な、貴様!  
言うに事欠いて...

こんな時に...  
阿呆の様な  
戯言を...

嫌か  
ならば耐えて  
みせよ



そなたがあ...

これだけ  
悦んでおいて  
まだ言うか

そらッ  
果てよッ!!



うーッあ

うぐッ

我でイけ  
ラーメス!!!



はッ

カミッ  
……ッ

……ん……ッ

はッ

あッ

強欲な奴め……ッ

びくー  
びくー

……  
……  
……

ふ……ッ

カミッ……



……  
……  
……

身体が重くて  
堪らん……

これは伝承通り  
耐えられる者は  
少なかったであろうな



……



外はまだ  
晴れぬままか

何処へ  
いく…

めせち…

行くな…

!

の  
ツ

の  
ツ

キ



喉が渴いた故  
水を取りに  
行くだけだ

ゆめぬ

その  
ようなもの…  
何処そのものこ  
やせよ…

馬鹿者

このような姿  
見せられるか

それこそ  
嗤われるぞ



離さぬ…

決して

ムニヤ

ムニヤ

…は…



貴様が  
いないと

眠れぬ…

寒い…  
行くな…



な

ムニヤ

即寝では  
ないか

余程寝て  
なかったのだな

何と傲慢で  
強欲な奴よ

冗談か真か  
神王をものこすると  
言つか

総ての果てを  
手に入れた王

実以て  
酷い夜よ

せめて余の隣で  
良い夢を見よ

ギルガメッシュ

王の心は  
誰にもわからぬか…

果食う孤独の源を  
問うた所で  
応えは出ぬだろうな

…それにしても

ナニラ…

## 吹雪の夜に

「サーヴァントは夢を見るのか、見ないのか」  
設定に於いて結構重要な要素のひとつだと思っています。

現在FGOでは過去や別時間軸の共有が個別であやふやな所もあり、それが良い意味でも悪い意味でも幅を広げているので南極(このお話は1部設定なので南極設定は出てきていませんが)と言う神秘に溢れた場所であれば夢としてその別時間軸を視る可能性もまた有なのでは。

古代に於いて夢見とは賢者や王にだけ赦された特権と記録されています。  
良き夢も、悪き夢も、夢は夢。  
どう捉えてどう答えるかはそれぞれですが少なくとも当カルデア我余は余が隣に居るならば、それほど夢見は悪くなさそうです。

ギルを穿ったのは矢なのか刃なのか。  
エミヤさんが放ったのが矢なのか、刃を持つ矢的なものなのか、刃の武器なのか、結構ギリギリまで悩みました。アニメだと完全刃ですが一枚絵だとなんとなく刃っぽい…みたいなの。  
文字にも起こさされていないのでそこは描き手次第と言う事で。  
個人的にはもう霊基的に生成する武器も限られる、そんな中あの英雄王を穿ったのは魔力も何も籠められてない名も無いようなただの一振り刃、と解釈しています。  
それにしてもアニメはずっぶり入ってて絶対貫く意志を感じます。好き。



# 深き湖沼へと至る食欲のソルナ

さあ刮目せよッ  
!!!!!!

絶望を許すッ!!!!!!

最期に余の神威を  
瞳に焼きつけて死するが  
良いッ!!!!

小五月蟬い  
人の子だと

はは……

ははははははッ!!!!!!

その程度にじか  
思わなかった



……下らん

この世にもあんな  
輩は居るものだな



この辺りの  
残滓はもう確認出来ない

みんな  
お疲れ様

暫くはこの空間も  
安定するだろう





……の

黄金の

黄金のツ!!!



そなたは黄金を冠する  
神代の王であろうか?

黄金の

当然であろう  
それ以外何があるうか



……まさかとは  
思うが

私の事か?



……?



ヘル・アアと言いつものは  
皆このなのであるのか?

他意も見えぬ

悪意も

嫌味も



であれば

我を前にしての  
態度とは思えぬな

黄金

とはそなたを以て  
他ならぬ故



言うだけはある

濃厚な魔力の香りが  
甘く漂っている

こそその時代では  
良い生を過ごしたので  
あるかな

そうか…

ならば  
貴様は……

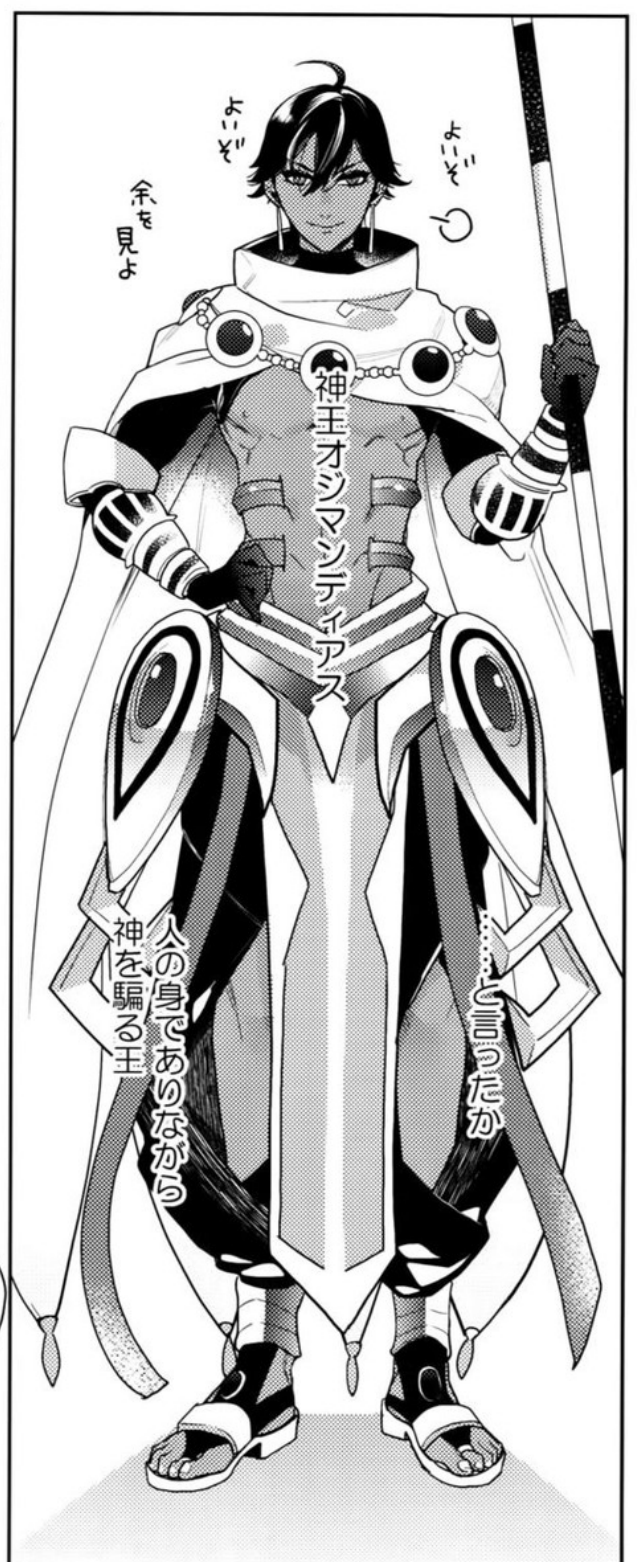


太陽の

ほうッ  
赦すぞ黄金の

はははははッ

とても我が  
呼んでやろう



神王オシマンディアス

余を見よ

人の身でありながら  
神を騙る王

……言ったか

興味本位で  
相手をしてみれば

まるで童子を  
思わせる  
男であった

黄金の

黄金の。

言葉一つで快活な  
よく通る声が響き

清々しさが  
胸をすいた

ほう…

中々に  
良い香りでないか

これならば  
私の舌を潤すに  
値するぞ  
太陽の

好みも  
よく合う

であろう？

余と並ぶ  
そなた故許す杯よ

これを拙いなどと  
宣ったとなれば

その濡れた舌を  
切り落とす所で  
あったぞ



征くぞ黄金のツ!!!!

ふははははははッ!!!!

我に先登を  
託すか

オオオオ

ゴッ

はははははははッ!!!!

良かろう  
太陽のツ!!!!

貴様  
自身の幕が開か  
なかつたと後になつて  
ぼやくでないぞッ!!

飲ぶが良い!!!!  
我が手を下してやろうッ!!!!

ッ

ははははは!!!!



はははは  
はははは  
はははははッ  
!!!!!!



うげ!!  
一掃かよ!

うるくの  
英雄王は

50貫を超える大斧を  
振り回していたと伝承が  
あるがまさかこれ程とは

※約200kg



下手したらこっちまで  
吹っ飛ぶツツの!!



爆ぜよ…ッ!!

なあんで U U  
急にあの人あんな  
やる気出してるの…!



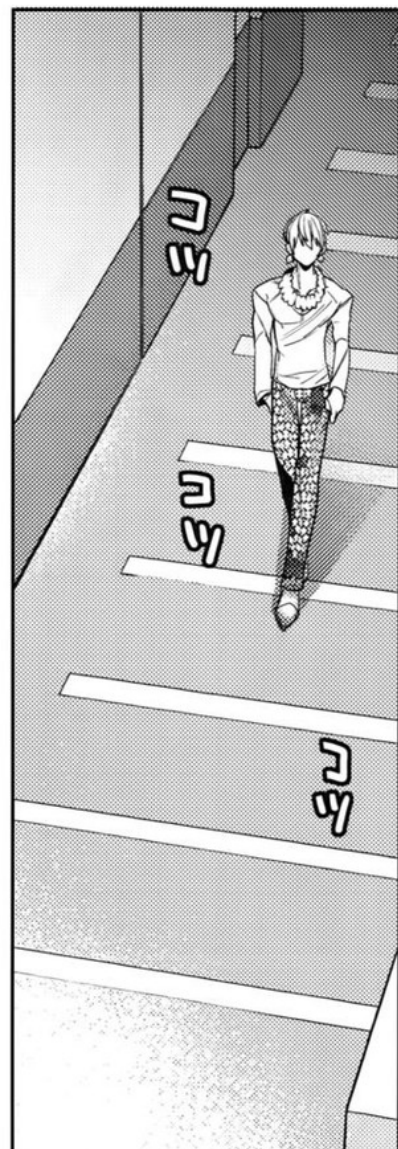
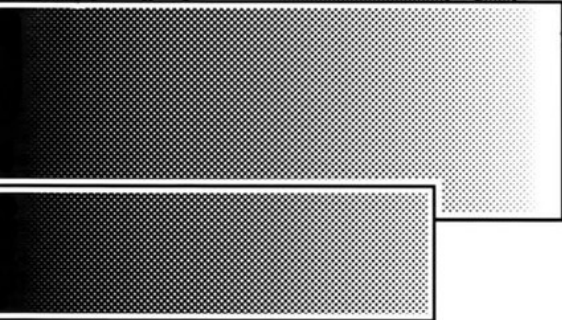
だからこそ  
きつこ

御二方は共に  
おられるのだ

暴君と呼ばれた方の  
何と穏やかなお顔か

いづれにしろ  
御心内は私には  
わからないが

羨ましいな……







.....太陽の？

おや

英雄王ではないですか

おはよう  
ございます

貴方をこんな  
朝早くに見るとは  
珍しい

何だ

オジマンディアス殿を  
お探しだったのですか？

何

オジマンディアス殿は  
陽が昇る前  
時々ああしてお一人で  
打ち寛いでおられるんです

何だ

あの表情は

奥方様の事を  
思い出されていると  
以前お話して  
下さりました

ててて。

ふふ

普段は  
勇壮な方では  
ありますが

慈愛に溢れた  
優しいお顔

余程奥方様の事を  
思慕われて  
いるのでしょう



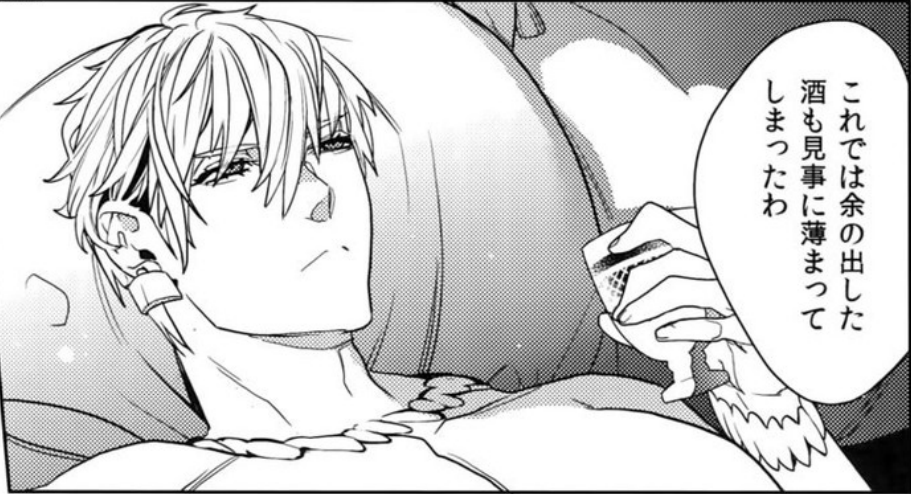


この様な美酒を  
隠し持っておったのか

悪質な奴め

死臭がこびりつく  
墓所に召喚ばれ  
退屈していた所

こうして酒を飲み交わす  
相手が出来たとすれば



これでは余の出した  
酒も見事に薄まって  
しまったわ



貴様への酒よ  
…太陽の

祭りごとと思ひ  
上酒のひとつも  
出さねばなるまい



どうした

ん？



……

らや……



チャリ……

そなたは  
伝承と違うなど  
思つてな

伝わる話では神の血を  
色濃く継ぎながら  
実に人らしかったと言う



表情は豊か

感情の起伏が  
激しかった……とな



良い  
続けよ

それで?

……そなたは

笑いこそすれど  
底は冷えて

その実  
愉しみなど何も無く

酷く冷たい

火の無い  
燃え尽きた薪だ

総ての果てを見飽きた  
そなたにこの世界は



それ程に  
つまらぬか

黄金の



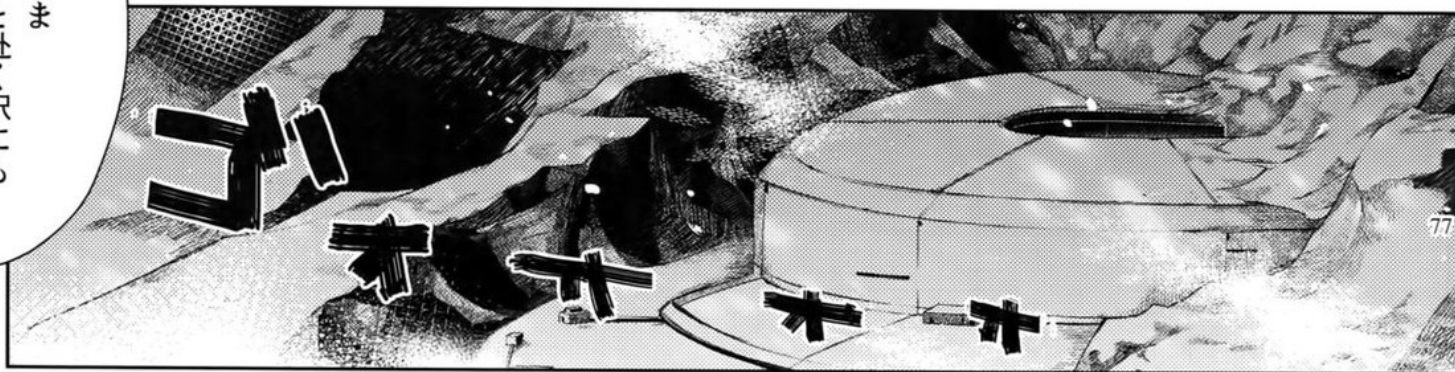


事、此度の戦いは  
とりわけ  
興が乗らぬ



……そうさな

気まま  
外へと赴く訳にも  
いかぬしな



ゴ  
オ  
オ  
オ



未熟な魔術師では  
荷が重いわ

ほはッ  
そなたを  
熱くさせるには  
難儀よな

踏む土地が  
そもそも  
無ければ  
世界に興味が  
持てぬのは  
道理であるうよ

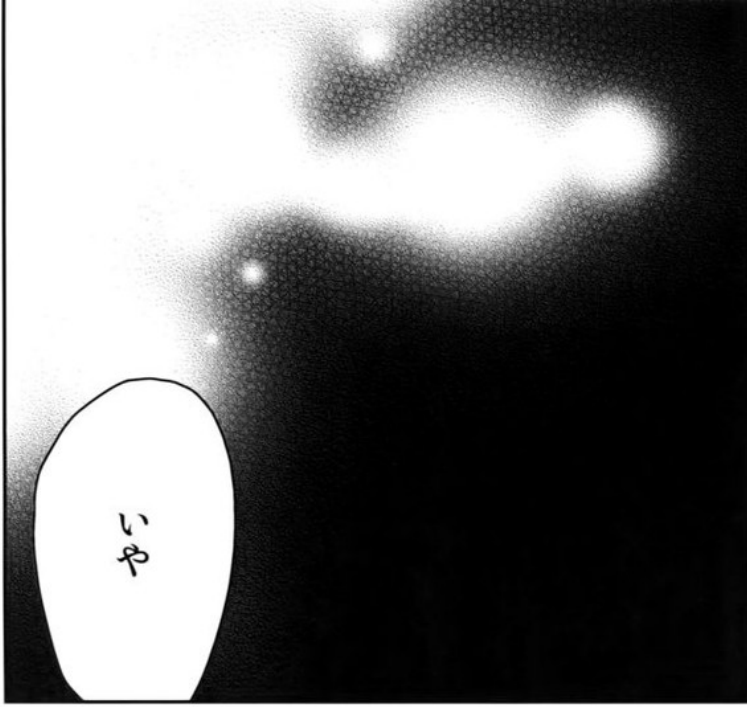


この酒と同じ  
じつくりと寝かせねば  
ならぬか

……  
所で太陽の



それに我は静観すると  
決めている



い  
や



夜はまだ長い

カキヤ

夢を見るには  
惜しいと思わんか  
なあ？



まほ

何だ  
そなたともあろう男が  
もう話の種を  
撒き尽くしたと申すか



今宵は  
色に戯れぬか



ん？

……ん？

何を  
驚いている

……



尤も……

うま。

我が口にしたり以上  
貴様に却ける言葉は  
赦されぬぞ

よいぞ  
良いぞ

余の玉体を前にすれば  
仕方の無い事

欲が出るなど  
当然よ

肌を  
重ねる事は良い

万物を産み出す事と  
同義の尊き行為である

余は生前数多の者と  
情を交わした

久しく  
忘れておったわ

ははは

今の世ではそれを  
色狂いと言うのだ

まあそなたであれば  
余にも相応しかろう

抱き心地も  
良さそうだ

何れも  
良き

一時であった

国中の女を  
奪い漁った  
男が言いよるわ

……ん？

太陽の  
一つ確認するが

我が

貴様を

抱くのだ

ん？





……貴様先程  
私の眼を冷めた薪

……と戯言を  
宣ったな？



……ん？

ん？



なればこそ  
火を灯してみせよ

貴様がな

私の寵愛を受けるに  
値するぞ

太陽の



……ふむ  
余と共に  
沼を渡るか

黄金の



貴様の瞳は良いな  
雨粒を纏った小麦のような  
輝きだ

その瞳がどの様な  
色を帯びるのか  
興味がある



……沼？

余の土地の言葉だ  
色事を結ぶ時にはな

沼

に例えるのだ



渡ろうとして

一人で  
溺れてくれるなよ

黄金の



安心しろ

す・ぐ・に・貴・様・が  
溺・れ・る・事・に・な・る



ん…

ん…

……ふ

ん…

太陽の



はは……

キラ

どの世でも  
どの地でも

この作法は  
変わらん……



あ……

はあ

つめたい……



はあ

ちゅっ

はあ

ちゅっ

は……



キラ

幾らでもそなたであれば  
用意に困る事は  
無からうて

普段は勇壮な  
方ではありますが

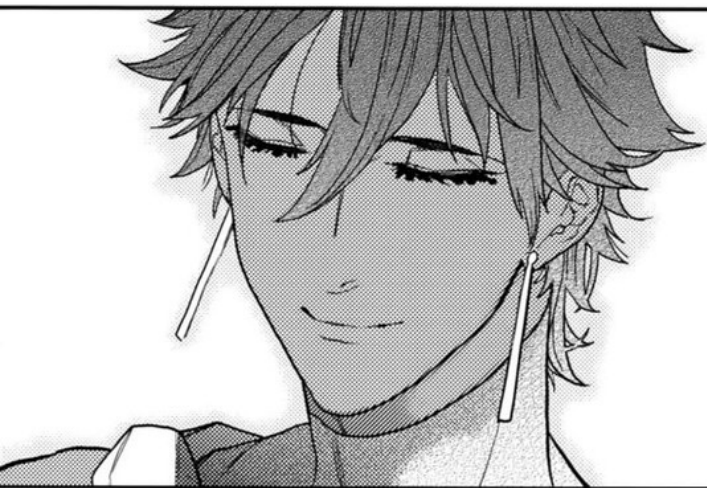


しかし何故急に？

この玉体に魂ごと  
魅了されたとしてもだ

はあ

しゅっ



慈愛に溢れた  
優しいお顔



……さあてな



はあ……

……そうであろう？



情交に

ちゅっ

ちゅっ

くふふ

ギッ

ただ欲を吐き出し  
愉しむ

理由など必要か？

悦楽で  
身を満たす



私の知らぬ女に  
愛を告げていたのか

わ



は…ッ  
はあ



ふ…ッ

はあ…ッ



ふ…ッ

はあ…ッ

はあ…ッ

寵愛なご…



…またそのような  
物言いを…

ス…ッ

そなたは…ッ

頓に獣のような  
眼をしておって

はッ

はあ…



そうだ…この

紅い瞳

白い身体

はあ…

※急に、途端にの意



あ…

この胸を揺らして



…その余裕は  
気に食わぬな

我はな

そんな表情を  
見たい訳ではない

は…?



……まるで

……くっ



何を…

太陽の

自ら解く姿を  
我に見せよ

……なッ!?

ぼっ

自慢の玉体  
なのであろう?



う…ッ

……ッ

そなた位よ

ほ  
ナ  
ッ



……ッ

……この…ッ



余に舞人の  
真似事を  
させるなど

……ッ



見惚れて  
言葉も出ぬか

余の玉体を  
瞳に映す事

至高の  
誉れと思えよ



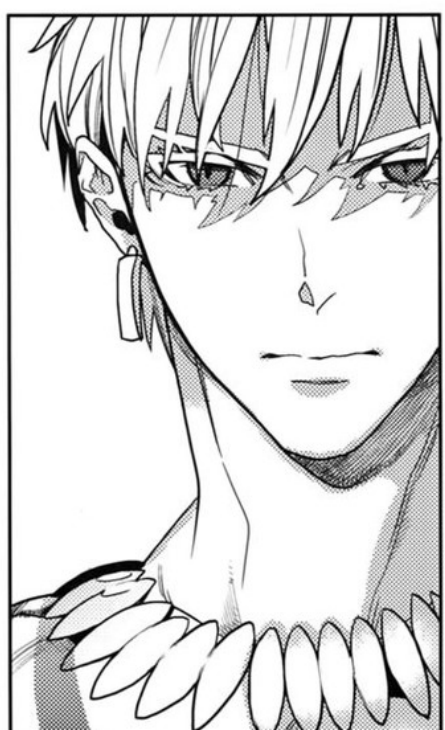
……!!



充分に  
愉しませて  
くれるので  
あるうな？

舞人の真似事を  
させたのだ

さて黄金の



くす

期待しておるぞ



好きものめ

もう撞<sup>たた</sup>けて  
おるではないか

太陽の

わい

キヤラッ



あ……

確かに  
貴様の好い所は

まあ

さあてな？

理解かる



余の好む  
場所を……ッ

…何故……？

黄金の……ッ  
そなた

視たな……!?

がな



黄金の…ッ

待て…ッ

ちゅく…

まて

ま

あッ

あッ

あッ

何

…あッ…ッ  
あッ…ッ…ッ

何をした

何を  
はっ

かつて異国の  
隠者より  
奪った蓮の香油だ

知らぬ女共との  
淫らな夜に

使っていた  
のではないか?

貴様もこの香りには  
馴染みがあるうよ

ちゅく  
ちゅく  
ちゅく

おお  
こちらももう  
吐き出しているな

スリ

びゅッ

びゅッ

びゅ

余を愚弄す  
ま…ッ

き

き

はは

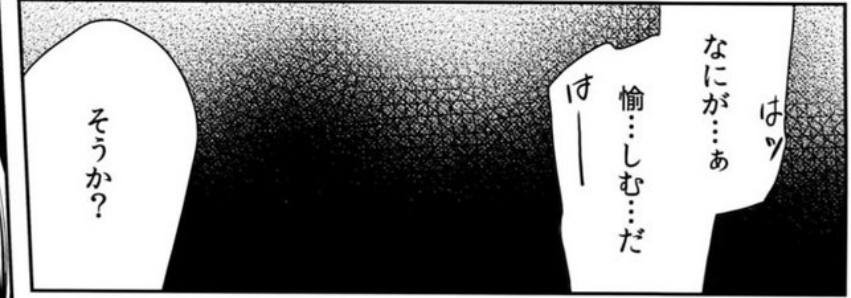
口も回らぬか

効くだろう?

貴様!

上質な魔力を持つ  
者程これに囚われる

如何せん強すぎる  
のが問題よ



この... はッ

なにが... あ

愉... しむ... だ

我は嬉しいぞ

熱く蕩けた  
今の貴様の表情は

とても  
見れた  
ものではない

ラーメス...

その名を... ツ

かお  
表情を  
見せよ

ラーメス

ラーメス

ラーメス



余程奥方様の事を  
思慕われて  
いるのでしよう

そら

奥が  
善いのであろう



見るが良い

何処ぞの  
知らぬ女よ

おっ  
おっ

今我の下で

健気に  
啼いているぞ

ははは……ッ

貴様が  
愛した妻は

くは…



んん  
んん  
んん

カチカチカチ

んん



やだ……ッ  
あッ

止めてくれ……ッ

はッ

はッ

やめ  
ッ

カチ

はッ

あッ

カチ

はッ

はッ

おはッ

……げほッ

はあ……



やめ……ッ

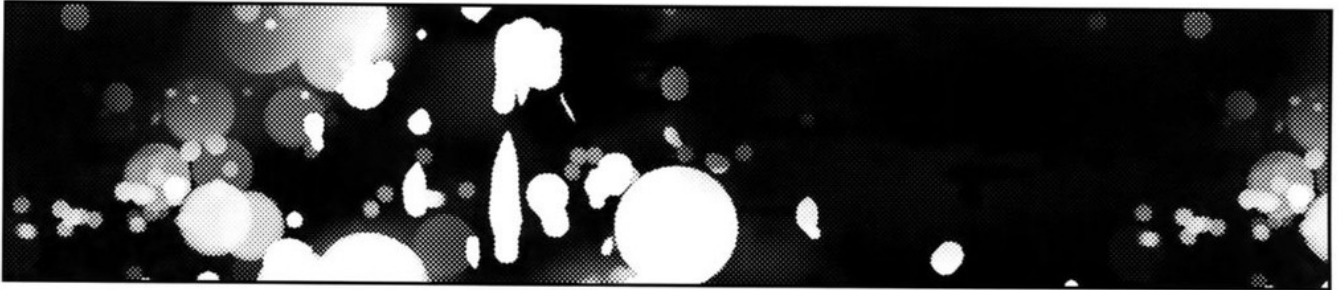
知

カチカチカチ  
カチ  
カチ



んん

カチカチ  
カチ  
カチ



は...

...はッ

はッ



はあッ

はあ...ッ



はッ

グィル  
グィル

ラーメス...

め...

どんしやく  
貪食の

忌まわしき



アペプめ!!!!

悪辣極めし  
貪欲者...!!

...穢らしい!!!

何故...



おッ  
何故!!

ガッガッ

...ふ...ッ

何故この...

ほ  
...ッ



う...ッ

余に対し...

何故  
...この...

様な...

一体...

何...を...

はッあ...

は...

抱だ

……ラーメス



キザリ...

混沌の大蛇

……さて……

目覚めた時の  
疎明そめいを考えて  
おかねばな……

キザリ  
怒り狂うで  
あううは

原初の水から  
誕生したとされる  
紅い瞳と白い肌の  
混沌の化身

アペラの毒は  
一噛みで全身を覆い

永遠の死を  
呼び込ませよう



## 深き湖沼へと至る貪欲のソルナ

私の悪辣な部分を描きたくて、でも中々出せずにいたままの漫画だったなあと反省した記憶があります。

我と余の根本的な違いはやっぱり奪うものと与えるものである事。多くの記録では勿論余も奪う側ではありますがやっぱり慈父である側面が強く出ていると思いますので、より二人の根底の差が明確でありたいと思っています。

我は善であり悪であり、創造そのものである。

心理学に基づいたとある本では我には成長期と言うものが無く、「壮年期の終わりが唐突に訪れた」と記録されています。

旅の終わりを指した一文ですが、圧倒的に達観した人の頂きの精神性を持ちながら、成長を経る事のない幼年期だけが存在したと自己解釈しているので、一種の子供の悪意のない悪意のような、ただそこに在るだけの所有欲がある瞬間著しい濁りで溢れたら良いなと。ふんわりとした雰囲気という言葉選びしか出来ずに恥ずかしいです。

余は逆にじっくりと、大切に、愛され愛して育った故の傲慢、なのでまた我とは違うどこか人の区切りを識ってしまっている部分があって、だからこそ神になったのに人との縁を切れない、そう在るべくして在る我とは逆にそう成るべくして成ってしまった王様だなと。

その根底の差、が出ているかどうかは別として反省部分は多いですが設定としては好きな話です。アベプを我に見立てるのとか、個人的にとっても好きです。神である証拠の白き肌、薄い金色の神、紅い瞳がエジプトの混沌を示すと言うの、良いですよ。

何が目的だったかなぞ  
最早識る必要もない。



赦さぬ。

赦さぬ。

# 宵に酔いて名を紡ぐ

# 奇奇神酒

永い時を費やされて造られた貴重な酒  
大いなる神々に捧げられ  
人ならざる怪物や魔獣をも陶酔させてしまう





最後の一本  
頂戴するッ!!!

ほああッ!!

大義である!

善き働きであったぞ  
牛の子よ

おおッ



厄介なモノが  
残滓となったな

はい!  
ありがとうございます  
ごさいます  
っっりっっり



たっ

今ので七体目か

みんなお疲れ様  
竜宮城での  
異常反応は最後だ

じきに消失  
していっくだろう

我を小間使いの  
如く扱うとは  
不敬よ

いや此処まで  
来ると不遜か

思い上がった  
ものよな

恐い事を言わないで  
くれ給えよ王様

残滓処理は  
出来る限り一回の  
レイシフトで済ませたいと  
言うのが本音だ

レイシフトは簡単でも  
安くもない

それに相手はヒュドラだと  
言う事を考慮すると  
相應の靈基の持ち主で  
ないと頼めないんだよ

ふん

物は言いようだな  
口をよく回る女よ

何だ黄金の

そなたもう  
音を上げるか

性根の  
痩せた奴め

何だと?  
言うではないか  
太陽の

ゴッ

くふふ

チキッ



おや  
今のひゅどらめ  
神酒を隠し  
持ってたか

たたり!!!  
(驚愕)

え?  
本当かい?



ん?



ま  
まあまあ御二方  
物の怪は  
もういないですし  
カルデアへ戻...



ん...?  
ならば非とも  
魔力保管をしたいから  
持ち帰ってくれるかな



おほ!!!

おほ!!!

おほ!!!



器の中を確認  
出来るかい?

はいッ



そなたは...



黄金のツ!!!!



げほッ ぜッ  
何だこの臭気は!!!

え?  
え?

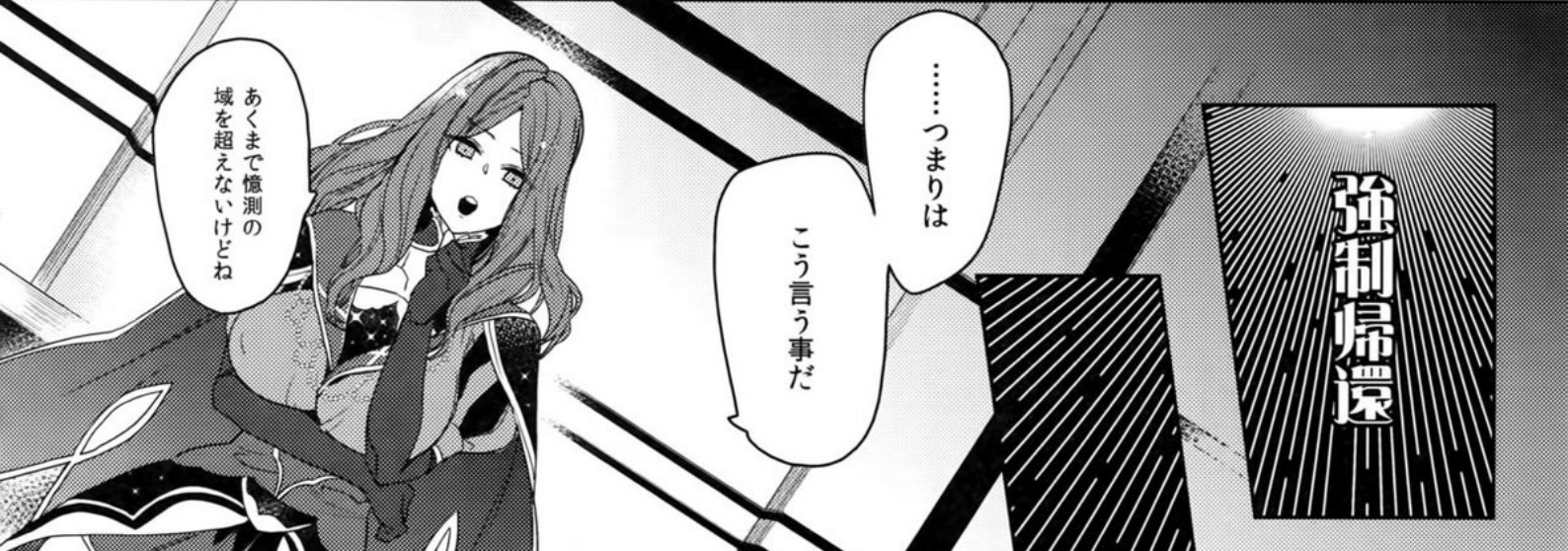
確かに少々  
強い香りですが  
それ程ですか...?

ごほッ!

頭の芯が  
灼けるようだ...!



へっ



あくまで憶測の域を超えないけどね

こう言う事だ

……つまりは

強制帰還

奇奇神酒は神々に  
与えられる奇跡の酒だ

酒を用いて何かを  
打ち倒すと  
言う伝説は多い

素戔嗚尊様の  
伝説でしょうか

日本での  
有名所だね

他にも印度のヴリトラが  
飲んだスラー酒などが  
挙げられる

ただこれは  
陶酔や泥酔の域を  
超えてる

此処まで高濃度な  
魔力の塊はいわば  
一種の呪いにも近い

ギルガメッシュ王がこの  
状態になっているのがよりも  
説得力があるだろう？

酒の香りが  
強くなってるな

そこだよ

ですが以前に一度  
ひゅどらめが隠し  
持っていた  
高濃度魔力水を  
手にした事はありました

何故今回突然…？  
うるくの英雄王だけが？

私にはただの香りの強い  
酒としか  
思えません

酒はどうやって  
味を上質なものに  
する？

ぼけ〜…

寝かせる事だな

その通り



竜宮城の言い伝えは  
識っているよね？

……

あ……ッ  
まさか



そう  
あそこは時間の流れが  
著しく遅いとされる

数々の物語で語られる多くの  
酒の効能が溜まりに溜まって  
あの器の中で熟成されていった

君らがアガルタの残滓を  
排除している数日間

酒にとってはどの位の  
時間となったのだろうか

栓を開けた瞬間

本来の時間との帳尻は  
何百年かそれとも何千年か  
果ては万を超えるか

結果から見ると  
本当の意味での玉手箱さ

あの世界を  
創り出したのは  
シエヘラザードだ

彼女は王への  
強い意識を  
持っている



王を呪う酒  
暴君を呪う酒

ギルガメツシュ王は  
王である前に神である

自身で  
捨てているけどな



彼の父は人間だったけど  
後に神へと昇格している

だから彼の血は  
やはり神が強いんだ



そして  
神をも呪う酒

彼こそ彼女の唾棄すべきと  
考えていた神秘そのものさ

……ッ

勿論幾らキヤスターとは言え  
シエヘラザード自身に  
ここまでのものを  
造る事は不可能だと思う

創られた物語が勝手に  
進行してしまった結果だ

王でも神でもない者に  
とってはただの上質で  
芳醇な酒と魔力だよ

……して

ズルルル

ズルルル

物語はいつだって  
周りの読み手に好きに  
解釈されていくものさ

こやつは  
どうなる？

戦う以前にまともに  
立つてもおられまい

媚薬霊薬秘薬の  
類じゃないからね

ただ無茶苦茶に  
強い酒だつて事を  
考えると呪いが醒めるのを  
待つしかないかな

いつになるか  
わからないけど

オジマンディアス王に  
被害が少なかったのは  
不幸中の幸いだね

うん

だつて酔い止めは  
酔ってから  
飲んでも遅いだろ？

そんな…  
何か薬餌は  
ないのですか？



全く…

何と言う姿だ  
情けないぞ黄金の

他の者に見られずに  
済んだ事を喜ぶのだな

うん…  
やきやき…  
※うっせー  
喧しい……

おにょからりおの  
おんにやち…厄介な  
咬いのろしおって…  
※おのれ語りの部の  
女め…厄介な  
呪いを残しおって……



ほれ  
物の具は解けるか？

世話の焼ける

おー…  
うあー…



余とて影響が  
無い訳ではない

しかし人より  
生を受けた身体故で  
あろうかな



…大分  
熱いな…

彼こそが  
神秘そのものだ



皮肉なものよ

成るものではな

そう在るもの……  
である…か



何を思うか

……

ふん



余は

神に選ばれし  
地を統べる王である

愚か者め  
その悪性な  
心持ちの結果よな



余こそ  
太陽神ラーの子

即ち民を調停する  
陽そのもの

それは不変であり  
真理であり理である

※よい思いをした  
埋め合わせに、当然受けなければ  
ならない悪い報いの事

……尤も  
互いにもう  
過去は覆せぬがな



……  
辛そうだな  
黄金の

ホッ

何か冷えたものでも  
持ってきてやろう



……太陽の

ギョッ



何だ？

行くな……  
側に……

……はあ……  
……居ろ……

うう……  
ほッ



……  
こちらを見る  
……う……ッ  
……？

ん…

アムアム

ちゅう…

ちゅく  
ちゅく

んく

?

ほか

…?

!!!

ケルケル

ふー

ケラ

え…  
流石に直接  
魔力を飲み込む  
のは堪えるな

ケラ

随分と濁って  
いるではないか

味も悪い

ほっ  
けふッ  
はあ

……貴様ツ!!!

おのれ…

誰の赦しを得て  
この我の花唇に  
触れるかッ!!

は…ッ

はあッ

くはッ

祿に話も  
出来なかった口で  
宣うわ

何

少々粗い方法だが  
そなたのその酔い  
治してやろうとな

要は濁りきったその魔力  
吐き出してしまえば  
良からう

となればやる事は  
限られる



器となつてやるのだ  
存分に余の身に  
余の吐なかに吐き出せ



この神王  
手ずからそなたに  
施しを授けよう

これは王の  
慈悲である

深き寵愛を  
受ける事を赦す

する...



飲べ

讚えよ

黄金の

そなた故と  
心得よ



不敬な...ツ

我に...  
この我に  
情けと言うかッ!!!

貴様  
黙っておれば

.....ツ



それに

あッ

それとも宝具を身体が  
空になるまで放ち  
此処を破壊するか?  
これは呪い故  
只待っているだけでは  
どうにもならぬぞ



ほう  
ならばその痴態を  
晒し女共に  
懇願するか?

やめ…ッ

これだけで既に  
芯が熱く  
なっているはなあ…

そなたのその姿  
一体誰が  
眺めるに値するかな？

お

苦しがるう？

あ…ッ

莫迦者

脱げ脱げ

待て…ッや…

凄みも只の  
強がりにしが  
見えぬぞ？

のれ…ッ

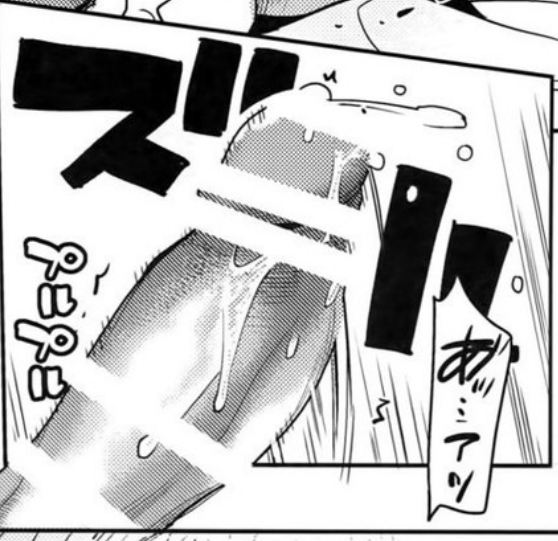
んぐ…ッ

わ♡

む

トコ  
ン  
ム

…んッ



ムン

ムン



呪いも真なれば  
高濃度魔力貯蔵品と  
しても十分に  
効能があると言う訳か

あッ  
はッ  
今は…ッ  
いや扱うには中々に  
手が掛かる



止めよとッッッ!!!

貴様でなければ  
殺しておったわッ

ははは  
もう自制も  
効かなかったか



だ!!!!

ブルブル

か

ホァ

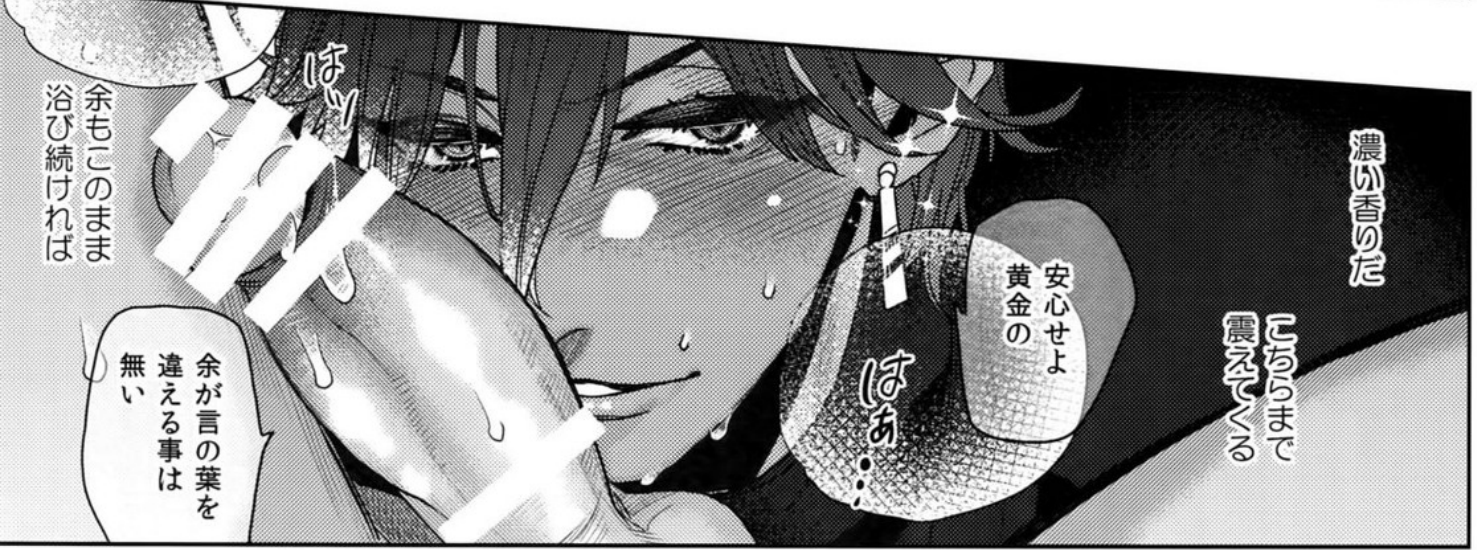
ホァ



ふむ

最早酒  
そのものだな

ハッ…



濃い香りだ

こちらまで  
震えてくる

安心せよ  
黄金の

はあ

余もこのまま  
浴び続けければ

余が言の葉を  
違える事は  
無い



こやつと共に酔い狂い  
呪いに蝕まれるで  
あるつか

ん…

愚かな考えと  
笑うか? 黄金の…





この我にその様な不敬を...ッ

加減なぞせぬぞ 太陽のッ

はっ  
はっ  
はっ  
はっ

はっ

はっ

はっ

そなた...ッ  
こそ...  
もうどうにも  
ならん癖に

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ



はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ



グニグニ

ほ

アアアア

アアアア

アアアア

アアアア

グニグニ

アアアア

あ

ほ

ほ

ほ

ん

ほ

内臓全てにやっつきの 貌になりさうだ...

かくかく

ひら

...あ...?

ほ

ほ

頭の霧も大分 晴れてきたぞ

はは...ッ さながら獣の如く 色情に塗れたな

ほ

ズ

ズ

ん

ん

大層な口を利いた  
事は忘れては  
おらんかな?

ん?  
太陽の

待て…この様な  
姿……ッ

貴様の言うままに  
はぢに注いで  
やろうではないか

良い

器になるなどと  
のま  
宣いおつて



深…いッ



まじわりのゆ

ちほ

黄金…

お…黄金の…



頭が如たる

SPANKER  
PRINSENGER

酒の香に  
酔ってるのか



は…ッ

は…ッ

私の精を愛飲し  
よく味わう  
表情を見せよ

物欲しそうに  
薄けさせおつて

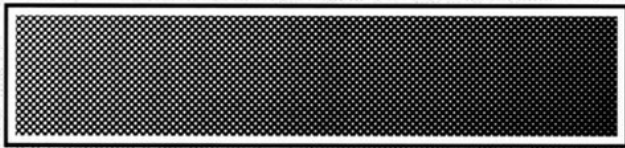
ちが…ッ

あ…



.....は  
はあ

.....はあ





は……はははッ

ほあ

どうした  
太陽の

言葉も交わせぬ程に  
好かつたかッ

はははッ

肚が……ッ

煮えるようだ……ッ

ほあ

ほあ

や、かましい……ッ

口が回る途端に  
それか!



私の杯としては  
随分と小さいな

は

ははッ

は

は

ははは

流石にまだ  
抜け切らぬか……

これ程までに  
酔うたのは冥界に  
楽器を落とした  
以来であろうか



……いつもの仏頂面に  
戻ったな黄金の

余の尽力  
故であるぞ

たて たて

それにしても  
サーヴァントの身と  
言うのも難儀よなあ……

……ふん

強がりと言うな  
私の精を受けて  
まともに立てぬ癖に



余り  
下らぬ事など  
考えるでないぞ

違っわ

ん？  
何だ  
もうせぬぞ

……太陽の



愚かにも  
煽りおつて

濁った魔力を  
自ら受けるなど  
浅はかよ

すり



すりすり

……  
うん



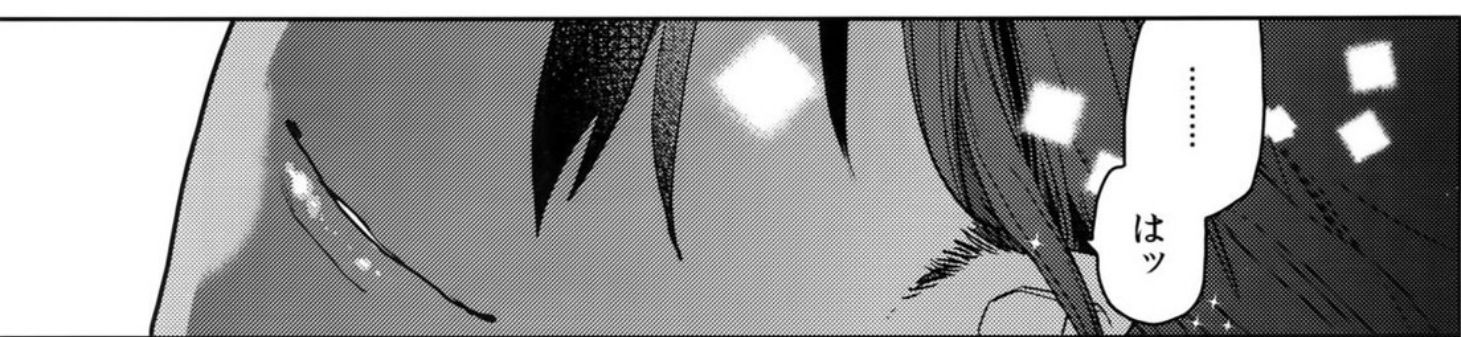
我を譚名<sup>こんかい</sup>にて  
称するの  
我が称するの



……太陽の

くさ……

貴様だけに赦した  
特権よ



……  
はッ

悪性な根は  
治らんそなたは

## 宵に酔いて名を紡ぐ

短いページの割には描きたい事が描けた漫画です。  
我と余に絶対的な優劣の差は一切存在しない、と言う前提が自分の中にあります。  
もしかしたら受け取り方によっては「優劣」となるかも知れませんが…。

そう在るべくして在る我と、そう成るべくして成った余。  
どちらも人と神を有する存在ですが根底がどうしても圧倒的に違う、  
そこが堪らなく好きです。

これはFGO内に於けるステータスの話になりますが、  
人に下った我、神に成った余がそれぞれ神性Bな所がもう～好きです。  
これを人に下り、神を嫌忌して尚、Bを保つ我と捉えるか  
神に愛され神を所有し神に成った人である余がBを有すると捉えるのかで  
見方が変わってくると思いますが、そのどちらも描けていたらなと。

ただシェヘラザードが「忌むべき」存在たる王はより  
「全盛期であるギルガメッシュ王に適正があった」と言う単純に性質の  
話なのに余にとってはそこに前述である優劣がある…と実に人らしい人の感情が  
出てきてくれてたら……良いなと！  
王に、神に、埃及に固執する余だからこそ余らしく出てくる感情の一つを  
伝えられたら嬉しいです。







## 無花果と魚の骨とファイユームの赤ワイン



カルデア解体告知後  
いつかの日  
いつかの時



聖杯を、だと…？



そそ  
来るべき時に  
備えて  
ね

英雄王  
貴方に聖杯を  
託したい



これがどう言う事か  
貴方なら理解って  
くれると思うんだけど

実は聖杯の所在全てを  
上には伝えてないんだ  
特異点に於いて  
聖杯が存在した事すら  
一部隠匿している



……気狂いめ  
ありがとう  
生前もよく  
そう褒められて  
いたよ  
はあ

魔力構成解析の為に  
時間を使っていた  
訳だけどそれも  
ようやく終わりを迎える

さてそれで  
残された  
超高濃度魔力貯蔵遺物

これをこのまま  
バレて協会に  
渡すには惜しい  
媒体としては  
これ以上無い  
完璧で  
比類なき道具だ



英雄王  
私はあなたの  
身体と力と精神を  
より本来のものへと  
近づけたい

どうだろうか？

聖杯に溜まる  
魔力量子を  
電力変換して  
貴方の霊基に  
直接組み込む

カルデアシステムを  
介した霊基の  
再臨とは訳が違うよ

良からう

それが  
必要なのであろうか？

何  
貴様が言わなければ  
我が聖杯を  
取り上げていたわ

我程に馴染む者も  
おらぬぞ

なら  
合意と言う事で

聖杯より取り込んだ  
魔力を得た  
貴方との縁  
大切にさせて貰うよ

うわぁぁぁ……  
す…凄い

凄すぎる……ッ  
!!!!

素晴らしく  
美しい神気……  
この眼に映す事が  
出来て感動だよ……

ふわふわ……  
少しでも  
気を抜くと  
き……気絶  
しちやいそう

たわけ  
私の本来の姿は  
より高みの存在よ

……まあ雑種にしては  
良くやったと  
褒めてやるぞ

貴様の  
そのよく回る  
舌と頭は  
評価している  
大義であった

……聞いて  
いるのか

私と  
した事が

……これは  
最大の敬意を以て  
発言するけど

貴方のその……  
美しい身体と瞳と声は  
呪いではないかと  
錯覚する程だよ……

ふん  
当然よ

は……早く靈基を  
馴染ませて  
くれ給えよ

ははッ  
意識を保って  
いられるだけ  
褒められたものよ

私は  
臥所に戻る

疾くその  
惚けた顔を  
どうにかするのだな

いやあ……靈基の質を  
あげる事が影響あるとは  
予測はしてたけど  
実際に体験  
するのは違うなあ

でもこれで  
私の論理は  
立証された

靈基はより  
高度に変質出来る  
不可能じゃないんだ

我がその気になつて  
やれば貴様とて涙を  
流しながら衣を  
脱ぎ捨て懇願するぞ

良いね!

……じゃない!

聖杯を  
託せる尖蓋を  
リスにカツ  
しなきゃな

……そう言えば

彼自身に  
影響は  
無かったのかな？



触れる  
空気一粒すら  
感じ取ってしまう

不味い

# あわわわわ

思わず着込む  
最古の英雄王の凶

自身の「ヤバイ」  
負けてる

気を抜けば宝具が  
勝手に展開しそうだ  
己のより己に近い姿を  
御せぬとは……ッ



！  
おお戻ったか  
おうこ



霊基を少しな…  
何…直に治まる…

ダ・ヴィンチ  
めの…？

や… さま  
やかましい…ッ

あの気狂い  
芸術家の口車に  
乗ってやっただ  
か



何だどうした  
その魔力は…  
ゆ…茹だつて  
おるぞ！

最早  
災いのよう  
ではないか



そなた今の姿はまさに  
極上の酒樽が  
中身を吹き出しながら  
歩いているようなものだぞッ

太陽のツ!



じい  
てっ  
おっ

んぢ=!



何を...

ビクッ

おっ

か  
い  
よ  
ッ



ははッ  
何故着込んでるか  
と  
思っていたが

これでは無理も  
無いか



んぢ=!



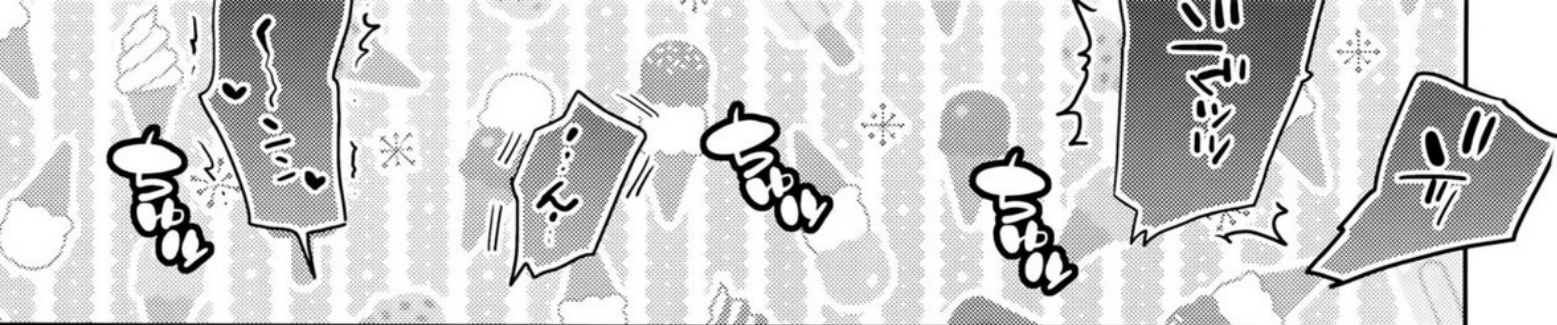
香りも  
格別に濃く  
なっているな

ぐ...う

は...  
愉しんで  
おるな...  
太陽の...  
はあ...

太陽の...  
はあ...

よし





それ眼の前に  
神の器があるぞ

余に…味あわせて  
みたくはないか…?

はあ

赦す

思うままに  
注げ黄金の

くはッ  
きさま…が  
味わいたい  
だけであらう…ッ

はあッ

我を嗅いだ  
だけでそれか!

色狂いめ…ッ

溢れ爛れた  
濃厚な神力

今この時  
そなたからしか  
味わえぬ

如何なるものか  
求めぬ方が  
狂っておるわ

なれば零す事など  
赦されぬぞ  
太陽の

…そうさな

今しか  
味わえぬものよ

何を言うか

余の健啖は  
そなたも  
識つての通りだ

※盛んに食う事





な…んと  
心地の  
良い事か

とろい…♡



はあ…

これ  
たばこ

肝が…  
煮え…



日頃に不満でも  
あるかのような  
物言いではないか



いつその事このまま抑えている  
神性を解放してはどうだ?

この…ッ

ぬきッ



二度とそのような  
口を利けぬように  
せねば…

ア…ッ!!!

ハ…ッ

ッ!!!

ッ!!!

なッ!!!

はッ…あッ



吞ませよ！

はあ

はー

はちゅー

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

疾く注げ  
黄金のツ

はあ





酒が欲しければ  
我が最上を  
見繕ってやると言うに



ふはッ

何とも！  
ははッ愉快！

懐かしき味よ



貴様に  
出し惜しみは  
せんぞ



この身体は  
余の姫が  
産まれし時の身体  
掛かっていた

乳母の乳が  
良くなるようにと  
與えられた  
無花果と魚の骨の  
薬餌も効かず  
姫の喉は閉じたまま

生への乾きは衰え  
影の国に赴く時  
助けてくれたのが  
我が友であった



良いのだ  
これが  
良い

美味しい酒など  
今の時世  
いつでも叶う  
事此処に  
於いてはな



ふとそれを  
思い出したのだ

エーテルの  
虚ろな身体と成っても  
記憶が重なる事もある

今こうしてそなたと  
杯を交わす事もまた佳き  
記録と成るだろうか



褒美を聞けば  
この葡萄酒だけで  
良いと答えた

友として  
余が屋敷を用意すると  
言ってもあやつは  
聞かなかった

其奴は  
蛇と砂漠と  
魔術を  
事愛する男でな

それよりも  
砂と夜と蛇の危険が  
好きだと宣った

……解体か……



些か  
惜しいな……



今に固執する  
理由か……



……  
いや今のは忘れよ黄金の  
そなたと酒に少々酔いが  
深まった



※生前ラムセスは関節炎に  
悩まされていたとされる

……余の生前の  
悩みを知つての上で  
聞いているのかそれは

トすよ  
トすよ



所で貴様  
生前大病を  
患つた事は？

何と言うか  
熱病……とか？

は？



お前の願ひは  
すへん叶ひ



安心せよ  
愛多き我が同盟者

いや……  
何でもない

なごこ  
教えてはやらぬ



我を惜しむ  
お前を見ているのは  
至極の愉しみと言うものだ



いやしかし  
いつの世であっても  
聖杯なぞ碌なものではない

オジマンディアス王  
ちよつと相談が  
あるんだけどッ



!!!



## 無花果と魚の骨とファイユームの赤ワイン

霊基再臨システム、聖杯システムが好きです。

カルデアシステムを介した召喚となるためにぐだおくんぐだこちゃんの魔力の素が関係しない「一定の基準」にて召喚され、その為に霊基の質を上げるのに大量のクォンタムと大量の高濃度魔力体素(素材のそれぞれ)が必要だと解釈しています。

それでも尚カルデア電力システム上「本来とは程遠い」力の出し方をしているサーヴァントは多くいるとは思いますが…。

その中の一人が古代王であり、効率を求めるダ・ヴィンチちゃんであれば彼らの性格性質を十分に考慮した上で優先的に開放を行うと考えています。カルデアの解体が決まっているので先手を打ってたと。

…と、言っても特に我はカルデアに余り関与せず

(それも7章へのフラグ、能力の温存だったのではと今となっては考えます)

ふらっとカルデア散歩を楽しんでいた一面があったので

ダ・ヴィンチちゃん的には誤算だったな～他のサーヴァントを

優先的にしておけば良かった～となってて欲しく、そしてそれを描く時間はありませんでした。

そして急激な魔力上昇でぼかぼかになる身体、好きです。

余はドヤドヤして我をよしよししますがその後自分も同じようにぼかぼかになってます。

ファイユームの赤ワインはラムセス二世をテーマにした小説の

友を想う、とても好きな一文に出てきますので気になりましたら是非。



九天の果てに望むは金色の夢

それに果ても底も無く。  
故に産むべき原初も  
見当たらず。  
穢れたやつしを纏い、  
貪り続け爛れるそれは  
祓いとも祓いとも  
広がる泥の海。



それですね

兄様が牛若の為に  
そうおっしゃって  
下さったのです

ほう  
それは佳き事  
であったな

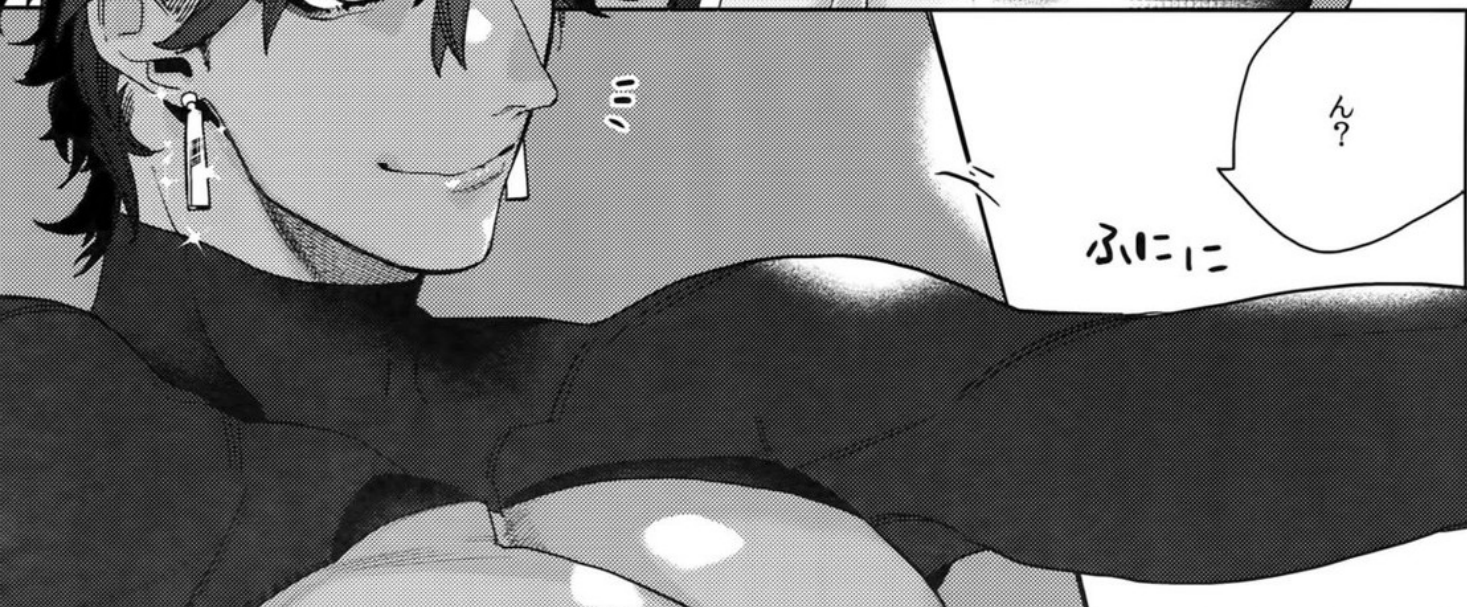


オジマンディアス殿の  
手は陽のように  
暖かですよ



……所で  
いつも思っ  
ておりました

ふに  
ふに



ん？

ふにに



身を凍らす  
冷たさでは  
話にならぬ



いや  
そうであるな

そうであるか?



ん  
ん  
ん  
ん

余は陽を冠する  
神の息子



地上にある総てを  
抱く王の腕が

ん  
ん  
ん



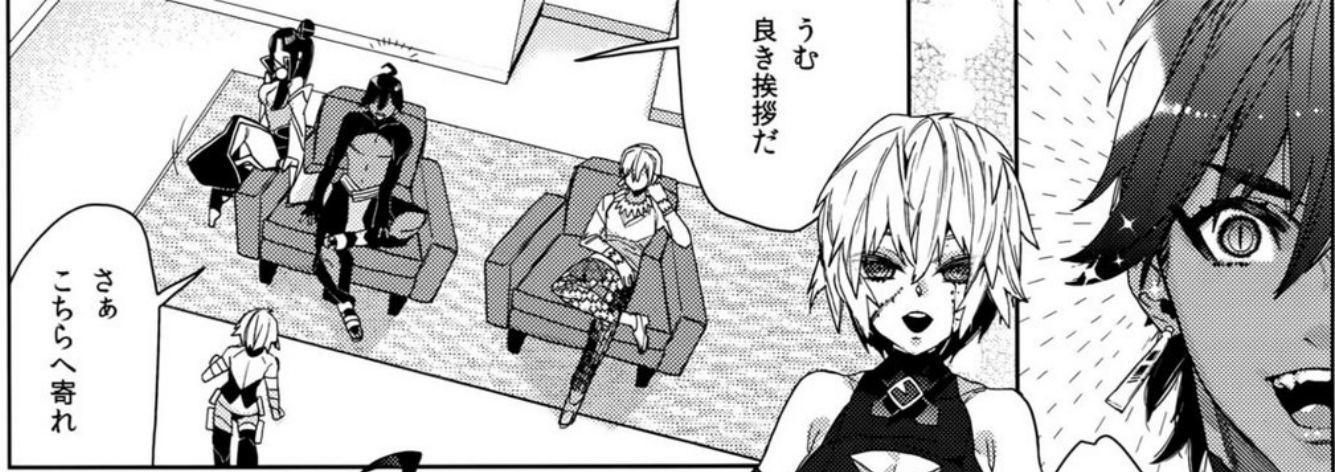
おーさま



カリ



燃え尽きた薪などに  
誰が集うと言うのか



うむ  
良き挨拶だ

さあ  
こちらへ寄れ



おおッ



愛い  
愛い

ふふ

くすぐりたいよ



ほう  
大賢のにか

うん

ナーサリーも  
一緒



今日はね  
けんおー様に  
本読んで貰うんだよ

くあ

今日は何を  
して遊ぶの  
だ?

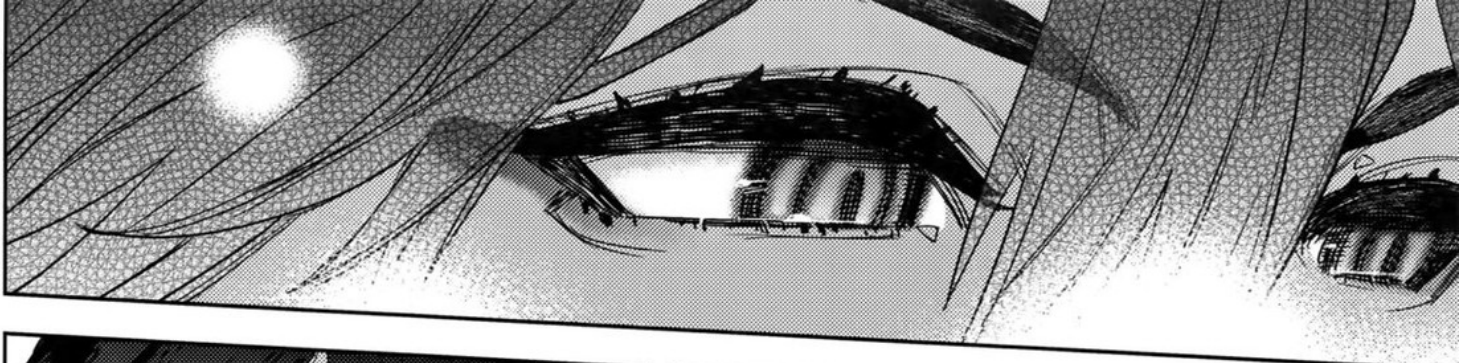


おはよう  
おーさま



とっておきの  
お話だって  
言ってたよ





何と  
儂ぎ事よ

変な  
おーさま

英霊<sup>かたち</sup>の貌<sup>かたち</sup>など  
在るべきままで  
良いと思つてはいたが

故に強さと  
なるのだな

幼き魂が  
愛を求め集う

この腕で抱くには  
些か余るのが惜しい

過ぎた憐れみは  
侮辱となるぞ  
太陽の

※  
余の愛憐<sup>あわれみ</sup>を  
侮辱と呼ぶか

……歯がゆいな

不敬であるぞ

※  
カキモノ





さてな

…何れにせよ探知も  
出来ぬ程のものとな  
れば余が自ら手を  
下す事もなからう

主殿は私の  
そばにいたい!!!



まあ粗悪な残滓だと  
思うけど一般人に  
被害があると困るから

ちゅちゅ  
ちゅちゅ

解決してくれ  
給えよ諸君!

随分と簡単に  
この王を  
使うな芸術家よ

ひえゝ  
ギルガメッシュ王は  
ご機嫌斜めかな?

何も反応は…

んゝ…やっぱり…  
観測ミスなのかな

……ん?

高濃度魔力体発生!!!!

敵性反応感知ツツ!!!!

後方に  
サーヴァント出現!!!!

まほうまほう

ズッ



シャドウサヴァント!?  
いやしかし...まるで  
泥土の塊のような...

靈基は  
アサシン  
暗殺者と特定ッ

マスターッッ  
!!!!!!

今すぐ全魔力を  
自身への  
保護に回すんだ!  
サヴァントの事は  
考えなくて良いッ!!!

呼吸を極力抑えて  
目を瞑れッ!!!



は...はい!

見るな!!!  
聞くな!!!  
触れるなッ!!!



クラスアサシン  
ジャックザリッパーの  
成り損ない...

否いや

そんな言葉では  
片付けられない...

これは呪い  
そのものだッ  
!!!!!!

余り近づくなッ!!

呪いに靈基ごと  
喰われるぞッ!!!

.....  
チッ

穢らしい汚物め



ま……  
待て……ッ!

何も…余には何も  
敵意など感じぬ

それに…暗殺者として  
貌を成したのであれば

あれは…

あれは…

生を求める  
赤子の魂なのでは  
ないのかッ!?

サーヴァントとして  
顕現したのであれば  
そうなるだろう!

産まれる事のなかった  
胎児の願望の集合体  
ジャックザリッパ―

しかしサーヴァントに  
成れないまま  
胎児と言う人格の  
器は消滅し  
強い願望だけが残った

最早呪いの淀み  
そのものと成ったんだ

何故突然現れたのか  
理解したよ…  
生存する為の糧を  
感知したのだろう

強く高次元の魔力を  
求める!

呪いとなった今  
それは乾きのまま  
貪るだけで  
人格などない!

早急に霊基もろとも  
消滅させなければ  
生身であるマスターがまず  
侵食され朽ち果てるぞッ!!!

おの…れ

主殿に  
仇なす悪鬼めが…



あれは  
些か厄介だな

悪意や害意が無い故に  
純度が高い願望を  
一体誰が責める事が出来る

叩き斬ってくれる……ッ  
!!!!



最早底も果ても  
あるまい……



無防備に  
近づいては…!!

何を…ッ

……!?  
オジマン  
ディアス殿!?

争う事などない





…オジマン  
ディアス殿…

さぞ  
怖かったであろう



オジマンディアス王の  
魔力が著しく低下…  
侵食も始まっている

魔力を差し出した  
所で意味など…



苦しかったであろう

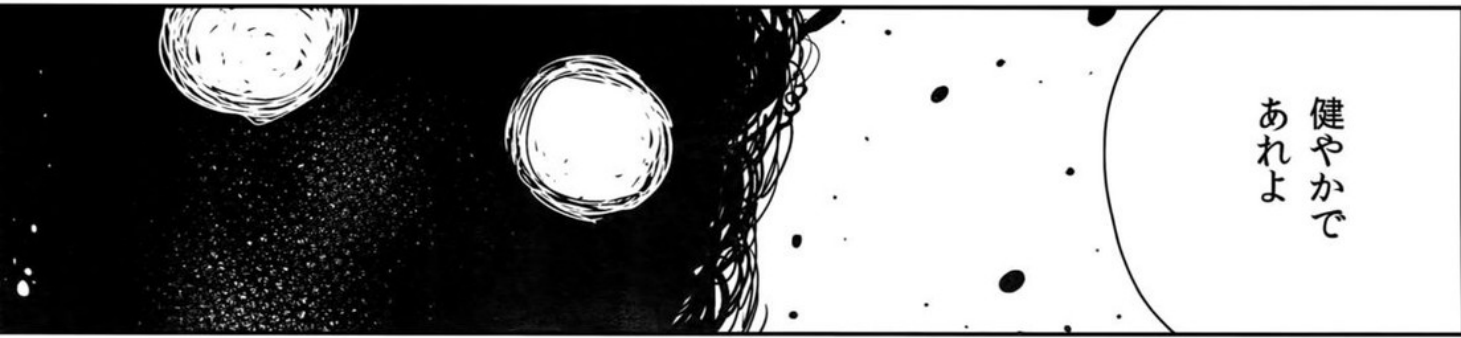


!!?



そなたらを責める  
ものなど何もない

余が望むものを  
與えてやろう



健やかで  
あれよ



…そんな…  
まさか…ッ



す”

す”  
す”





……敵性…  
 靈基反応  
 完全消滅確認…



余に…  
 触れては

……お  
 ……うっ…の



!



……うっ…



なら…



うっ



うっ

離……れ

そな……たにも……

呪……

……が  
黙っている

喉が灼けるぞ

……太陽の

事は済んだ

ホァァ……

貴様は  
暫し眠っている

皆ツツ!!

こちらで  
浄化の準備が整った!

ほろ無茶な  
ことなぞなぞ!

すぐにレイシフトの  
体勢に入ってくれ給え!

このままでは  
オジマンディアス王が  
消滅するぞ!

牛若ちゃん  
マスターは  
大丈夫かい?

君が彼を保護して  
いてくれよ

はい!

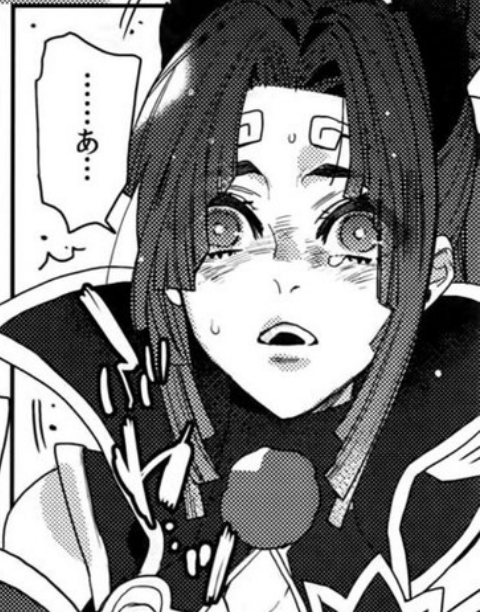
英雄王ツ  
オジマンディアス殿は  
平気ですか?

英雄王ツ!

えい……ゆ

お前にしか  
叶わぬ慈愛の采配

大義であつた





「おはよう」

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

万事は成され

花の魔術師の処置により  
余もこうして何事もない

であろう  
黄金の

何をそんな  
かお  
表情をするか

ムスツ

うわー

酷いねこれは

あははは

笑っている  
場合か

靈基に呪いが  
染み込んじゃってるね

身体の損傷は  
魔力でどうにか  
なるけど

靈基となると  
浄化方法も  
限られてくるんだ

まあ私なら  
何とか出来るけど

ハハハハ

フウ

ふう

ふう

造り替えられる  
靈基の面倒さは

……アタタ  
神王なら  
識つてると  
思うけど

……つまりぬ口上など  
不要だ  
疾く治療に集中せよ

微塵も穢れを  
残すなよ

はいはい  
お望みのままに



太陽の

呪いに底も無ければ  
果てもない

応える事も無く  
只産まれ続ける

…何が言いたい

……自戒や後悔を  
抱く事は無いのだな

そう言う  
ものだ

余は地上の総てに  
與える者

……黄金の

そなたと言えど  
過ぎた言葉は赦せぬぞ

当然である



……良い

貴様が掲げる王の姿に  
僅かでも陰りを  
見せたのなら  
首を切り落としていたぞ

だから貴様を  
気に入っている

んわッ!?

おう……

貴様！  
何を急に！

この程度では  
涙の量にも満たぬか  
冷たいな  
やはりまだ  
ラッゼ

ちゅっ  
ん……ッ  
ちゅっ  
ちゅっ  
ちゅっ

むぐ

ま、魔力は…  
要らぬ……ッ

貴様の事など  
どうでも良い

我が貴様に  
與<sup>あた</sup>えるだけだ

おう……んの？

僅か一瞬

貴様を喪う事に  
恐れを抱いた

……ラーメス

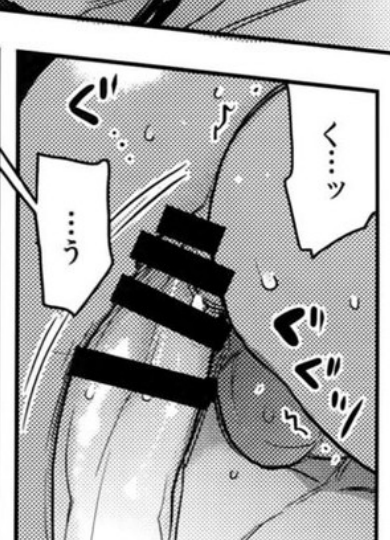
キーン……ッ

あ……ッ



喧しい...ッ  
まだ力が上手く  
入らぬ...ッ

くふふ  
それでは  
いつまで経っても  
出来ぬぞ？



……だいたい…ッ

ほほ

そ

そなたが…煽ったのだ  
このフアラオたる余に  
與えるなど…ッ!

カアッ

ほあッ

ならば  
甲斐甲斐しく  
奉仕してみよ…ッ

くはッ

よく言った

トッ

はら  
肚が膨れるまで  
注いでやる

ん…う…ッ

あ…ッ

う…あ

ぬほほ…♡

キエッ

ぐほッ

…





あッ  
まっへ…てるの  
…止まらない…ッ

はあッ  
ああッ

んぐ

う…て…う…ッ

ハッハッハッ

……ッ

はっ

あッ…あッ…  
あッ…あッ…  
あッ…あッ…

ハッハッハッ

ハッハッハッ  
ハッハッハッ  
ハッハッハッ

あッハッハッ  
あッハッハッ  
あッハッハッ





ま...だまだ満たされぬぞ  
ギルガメッシュ...

手の感覚が  
戻ってきてる...



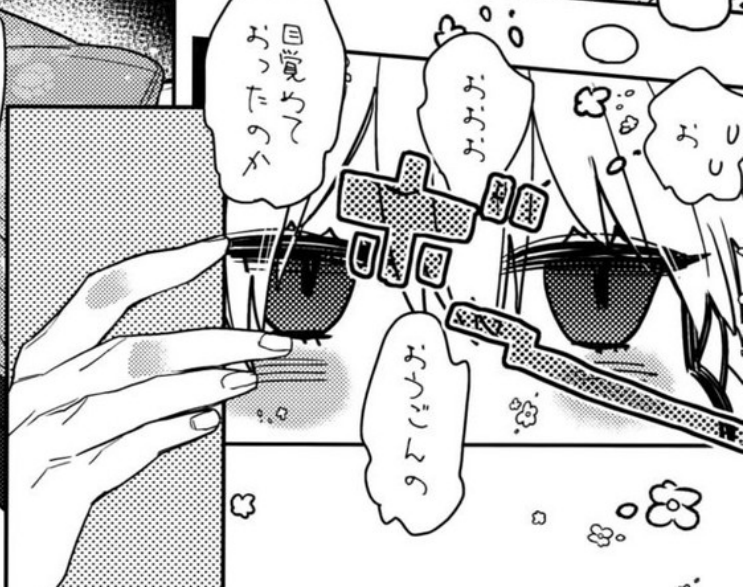
やはり質の良い  
魔力にて繋がるのが  
何よりも効くな

陽の加護を受ける  
こやつ故と言うのも  
あるかも知れぬ

しかし...



じやつても中央  
無理をする...



寝返して  
いるのか？

おい黄金の

黄金の？

ふふ……

暖かだ

陽の香りがする

ラーメス……

余は此処に在るぞ

ギルガメッシュ

あーっ

は...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

あ

ががが

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

あー...

良い良い

自ら出来たではないか太陽の

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

余...にッ 出来ぬ事など...ないわ

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

## 九天の果てに望むは金色の夢

呪いに底と果ては在るのでしょうか？

どのように現されているかは別としていつ如何なるどの時代であっても呪いは在るものだと思います。

人を惑わすものも、人を陥れるものも、人を想うものも、神を想うものも、神を望むものも、いずれも呪いの一つではないのかなと大きな範囲で解釈しています。

故に呪いに底は無く、また果てもない。生まれ続け在り続け、消えてはまた産まれる。例え天の頂き、最果て、九天の果てに辿りついたとしても呪い無き世と言うものは存在しないのではないのでしょうか。

説明不足も多い漫画でもっと戦闘シーンやジャック・ザ・リッパーと言う史実とFGO内とアポ内での差を描きたかったなと心残りも多いです。集合体であり個である彼女、彼の設定がとても好きなので霊基の歪みや本来本当に危険で忌むべきモノであると言うのは今後も描きたいです。

我と余の慈悲の決定的な差を描きたくて描いたので伝わってくれたら嬉しいです。

また、神の酒で描写した我が冷たく、余が暖かい設定を逆にして我が余を暖めて、体温を取り戻した余はやらばり暖かくて良いな…って思ってる私の数少ない献身が描いてて楽しかったです。

そこに愛も恋もな……い…のかな、自分でも決めかねてる部分ですが本人にその気はなくても他者から見たらそれは慈愛の一種ではないか？と言うのが今の所の私の余への感情です。





# 香の偽証

敵性反応確認ツ!!

上位魔力体が多いツ!!!

マスターの安全を第一に  
考えてくれ給えツ!!

ふん

まあ良からう

ははッ  
ならば応えて  
やろうではないか

ダ・ヴィンチめ  
余を駆り出してにおいて  
魔術師めの心配か

弱

情







その巫山ふざけ戯た口上に  
乗ってやろう

ははッ



オジマンディアス殿！  
残敵がッ！！

熱風が……

うわ……ッ

黄金のツッ!!!!



そなたにも見せ場を  
やらねばと思つてな



何

…太陽の

貴様  
自身の不手際を  
我に押し付ける気か？







何だ？礼でも  
言う気になったのか？

殊勝な事だ



黄金のツ



……ん？

む？



余の衣を  
汚しおつて！

精度が落ちたのでは  
ないか？

七つびり

な……ツ



ほほう？  
そなた余に  
あんな口を  
利いておきながら

己の不手際を  
押し付けるか  
黄金の！

貴様血の膿を  
被らなかつただけ  
有難く思わぬか

そも貴様が  
取りこぼした  
所為であるうがツ



このの詫びだと  
思うが良い

今宵はそなたが酒を  
用意せよ

あれは  
たのし  
だった  
ご自身の  
事でしょうに...

放っておけ  
いつもの  
事であろう

あ...ああ  
あの

なれば  
黄金の

御二人とも...  
レインコート準備  
整えますか



...貴様さては  
私の秘蔵が飲みたい  
だけだな?



くす...

全く...



ニッ☆

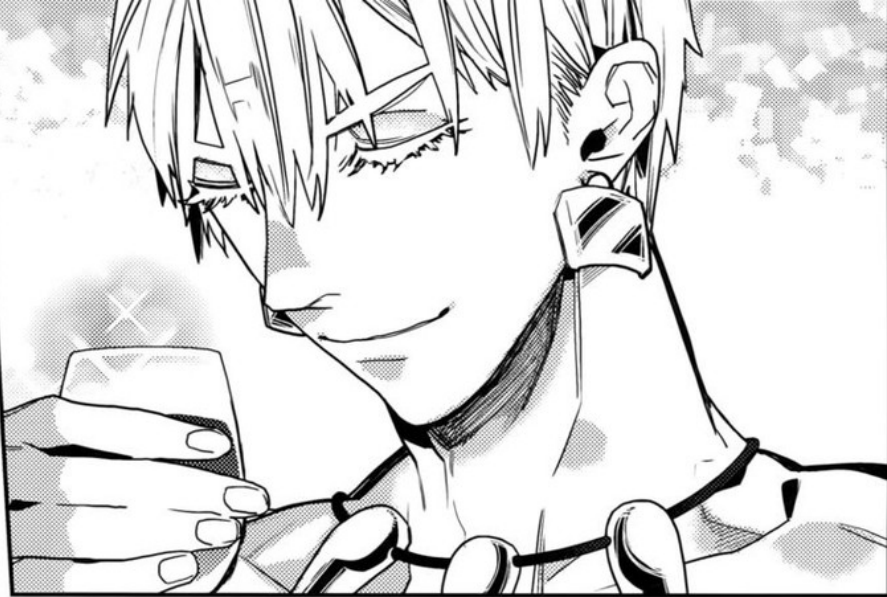
でな

——と言っただ

それを聞いた家臣共の  
驚いた顔と言ったら

叶うならばそなたにも  
見せてやりたいものよ

はははッ



…いや余と共に杯を  
交わす事歓喜の極みと  
思うが良い

ほう

今宵は巢には戻らず  
我と共に居る…と

む？

その物言いは些か  
引つかかるが  
…まあ酒はまだまだある

夜も長い

そういう事だ

貴様は飽きもせず  
よく語るからな  
夜の方が保たぬ

何を言うか

この声は全能たる  
神よりの啓示である

余の花唇は  
何れのフアラオより  
美しいとされる

当然の事だがな



私も貴様の事は  
気に入っている

その美しさ  
認めざる得まい

ギム  
ム  
☆  
☆  
☆  
であるう  
であるう  
であるう



……確かに……

くす



故に

語るは必然よ  
美しきものより  
産まれるより美しきもの



…なればこそ  
此処より紡がれる  
艶めいた声が  
気になる所よ

…ん？



雨粒に濡れた小麦の  
ような金色の瞳も

それが  
余の言の葉である



初々しい  
身体もまた





実に我に  
相応しいではないか

黄金の...?



情交だツツ  
!!!!!!

せぬわツツ  
!!!!!!



器としての悦楽も  
識らぬ貴様に

我がッ

教えてやると  
言っているのだぞ!!!

!!!!



よ……

……何ツツツ

余に……

ツツツたる

ツツ

……ツツ  
不敬な……ツツ

あ……



ちょ……

……太陽のツ

……待……

此で召喚術な……  
その織れた舌を  
切り取つてくれるわッ  
!!!!!!!

不敬で

不義で

傲慢悪辣

不敬ツ

不敬ツ

何たる奴だッ  
!!!!!!

言うに事欠いて  
余に器になれとッ  
!?!?!

たし  
たしッ

たし  
たしッ

巫山戯るにしても  
余りに不敬ではないかッ!!!!

……まあ

この玉体を前にすれば  
熟れた色味の強い欲が  
浮かび上がるのも  
仕方の無い事……



幾多の美しき女達も  
強き男達も  
皆肌を晒し余に総てを  
委ねた

※ラムセス2世のハレムには  
女性の数と同じ程の去勢されていない  
男性が居たとされる。

それが民らの  
至上の  
悦びであった



——そうだ

余に

余に総てを  
委ね

余に総てを  
捧げていた



よもや余がッ!!!

余がッッ!!!!!!

有り得ぬわッ!!!!!!

有り得ぬッ!!!!!!!!!!

カ  
ア  
ア  
ッ

ありえ

カキ

喧しい

何時だと  
思ってる

ヒキ



カマァァァ

あ……ッ



……ッ



何だ

い……いや……別に……

ささッ

同じ顔……

何を痼癩を起こしている

貴様今宵は幼き我と共に居るのでは無かったか？



ははあ……

幼き我めまた事を急いだな



……む……

そ

そなたには関係無かるう



!!!

であろう？

相当に貴様を気に入っているからな

陽の加護を受けたその身体と精神に触れたがっぺおるのだからな

そんな事を考えておったのか？



何を頑なに身体を開く事を拒む

良いではないか

幼き我の中で乱れてみよ

心配には及ばぬ器が何をされたら悦ぶか熟知しているからな



……ッ!!!  
赦されぬッ!!!

少し  
落ち着かんか

余…

余は神王たる  
フアラオで  
あるぞッ

総てを與えし  
地上の王だ

幾多の女も男も  
余の腕で  
抱いた!!!

余が抱いたのだッ!!!

だから何だ  
貴様幼き我と  
世継ぎでも  
こさえるのか?

頭の硬い奴め

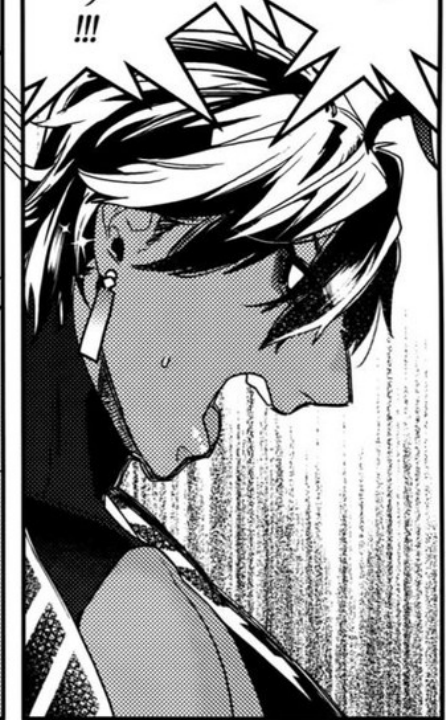
注ぐ酒と注がれる器  
数が揃えばやる事など  
決まっておろう

人も獣も神も  
其処に何の違いも  
無いではないか

幼き我はな

只この時  
得難き悦楽を共に  
愉しみたいだけよ

……ッ



興味あるろう?

貴様の艶事への  
探求は良く  
振っているぞ

……  
し…しかし

今此処でしか  
それは味わえぬぞ…  
神の子よ

まあ貴様ら小僧の  
戯れなど  
どうでも良いが

子童扱い  
するでないッ

幼き我が  
へッを曲げると  
中々に面倒故な



これをやろう

何だこれは

……あやつ……まこと  
疑う事を識らぬ……

ま

……

我は偽りは  
言つてはおらぬぞ

~~~~~

幼き<sup>あれ</sup>私の好む香よ  
中に香木を  
入れてある

…香？

聖者の遺灰で焚くと  
それは良き香りと  
魔力が立ち昇るのだ

使え

偶には財も  
使つてやらねばなと  
言う私の采配よ

何  
感謝など要らぬ  
気まぐれと思え

うむ……

そう……だな  
余も些か  
昂ふりすぎた

これであれば  
黄金の機嫌も  
良くなるであろう

なれば疾く行け  
貴様も気に入るで  
あろうよ

よき働きで  
まこと大賢の……

黄金の  
歓べ

余が態々<sup>わざわざ</sup>戻<sup>り</sup>ってきて  
やったのだ

帰れ

溜め長ッ

我はもう  
興が削がれた

疾く巢へと戻れ  
我が宝具で串刺しに  
されたくなければな

うむうむ

余に対する  
その不敬を赦すぞ  
黄金の

話を聞け

また先刻の不敬も  
不問とする

だから  
話を聞け

余は今宵  
そなたと語らうと  
決めたからな





何だこの香は…?  
お…黄金…の

はっ  
香ではなく…

はあ  
な…あ…?



太陽のツ

今すぐこの部屋に  
結界を施せッ!!!!

う…?



天上の神々が食す  
蜜菓子のような

頭の芯が  
焼け爛れそうだ…

甘くて



その原初たる  
傷ひとつ無き  
香木がこれだ

ニヤッがよ女知られている。

数多の支配者共が  
この香木を  
求め狂った

ランジヤ  
…タイ…?



おのれ  
あやつめ…ッ

これはな…  
蘭奢待と言う香木だ

はあ

焚けば最後  
人も獣も神も何もかもが  
乱れて欲を曝け出す

そして意思とは  
関係なく  
周りを惹き付ける

魔力を存分に吸った  
聖者の遺灰で  
焚いたのだからな…

今此処から一步でも出れば  
カルデア  
墓所中の人と英霊が  
我と貴様を求めたであろう

尤も…この状況で  
出ようとは思わぬだろうがな



はッ

自身の香りが酷く  
匂い立つのだ

香木に意味があるのでは無い  
香を纏ったものが  
呪いとなる厄介な代物よ

はあ…



頭が回らぬ…  
口を開くのも億劫だ…  
…面倒な事を…

…太陽の

貴様を責める  
事などせぬ  
安心せよ







ま...

待てッ

香に惑わされては  
ならぬ...ッ!!

...待てッ  
黄金の!!!

おうい.....

いた

ば...

んんん

しどろに濡らして  
強がりにしか  
聞こえぬぞ

あ...ッ

はっ

これは...

...もう少し時間を  
かけてやりたかったが  
これでは互いに  
頭の方が保たぬ

其処は...  
止めるッ!  
...不敬な...!

あッ

安心しろ  
たつぷりと  
香油も使ってやる

此処か





何だ  
これは……ッ

まあッはーッ

カが入らぬ

ががが  
ががが

そろそろ……  
良いか

くだら……ッ

……待て……ッ

ま……ッ  
は……ッ

ならぬッ

ゴッ

ががが  
ががが

あ……ッ



嫌だ……ッ!!

……落ち着け

あッ

……

もう此処は充分に  
開ききつておる

ゆつくりと  
腰を下ろすだけで  
良いのだ太陽の

あほッ

ちゅっ

あう……ッ

……無理だッ

おう……ッ

……



何だ…  
駄目だ、これは

ん…ッ

あ

はッ

…どうだ  
太陽の

痒い

痛みなど微塵も  
感じまい

はあッ  
…あ…ッ

味わつては  
ならぬものだ

は…ッ

はあ…ッ  
あ

あッ

ズッ  
ズッ  
ズッ

ア



我のを受け入れ  
肚が震えているぞ

生前味わえなかった  
知らぬ悦楽であろう？

は  
こうなれば

誰もが蕩けた  
声をあげて

舌と  
瞳を濡らす

…止めねば  
ならぬ

こやつを  
識れば

やめ…ッ

止めねば

はあッ

悦べ  
我で啼ける事をな

あ



はあッ

よ、うな格好

貴様……ッ  
こ……ッの

まるで獣では  
な……ッ

ズグゴゴ

アッ

肚……肚がッ

中……ッ  
暴れて……

アッ

ガッ  
ガッ

ゴウ

ゴウ

はあッ

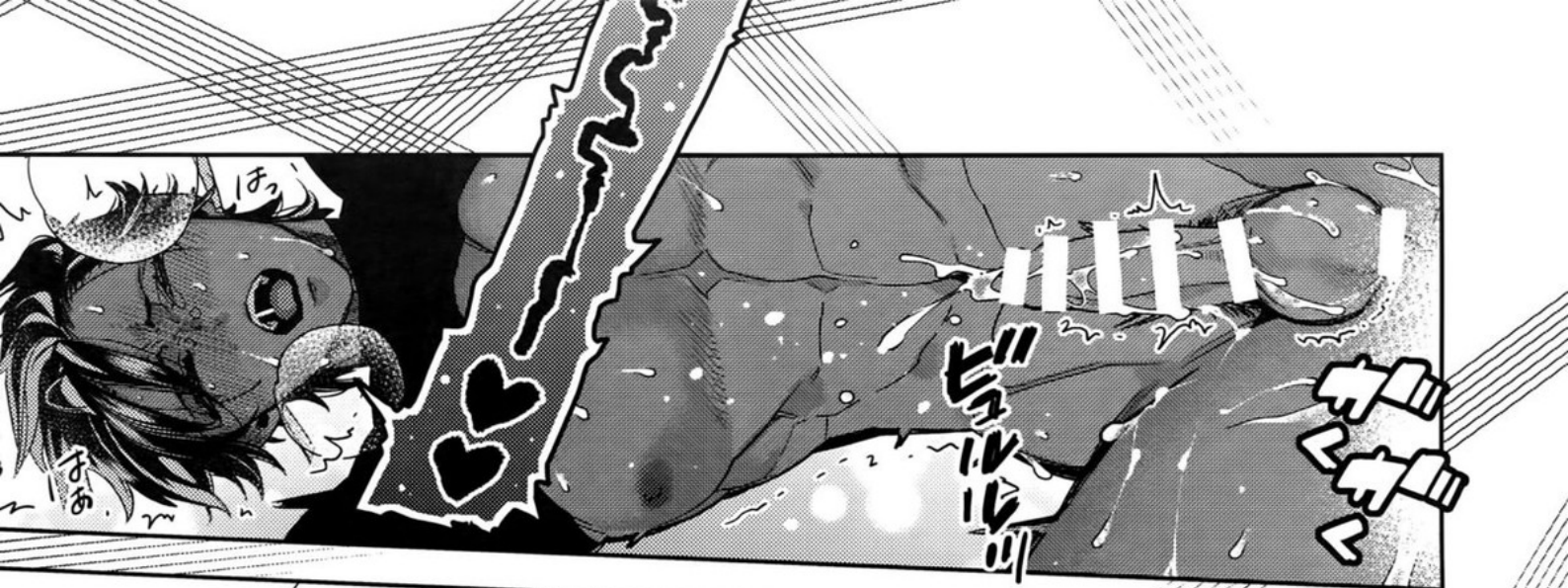
はっ  
な……ッ

アッ

は……ッ  
何だ  
これは……ッ

はあッ  
あ

はあ  
あ……ッ  
は



全く物足りぬ…

は

あ…ッ

…やッ

ひび

うめ…ッ

は

あッ

は

そ…そなたの精が溢れ…ッ

…どうした

はあ

…んあ

みッ

余の…このような姿…ッ

見るな…ッ  
…黄金の…!!



うざ  
うざ

ちゅ  
ちゅ

よいではないか…

んく



…ッ  
ふ…ッ

う…ッ

う





最早この熱に  
お互い  
抗える訳も無い

其れを理解した上で  
余に尋ねるか

何処までも  
悪質な奴め

ふ

……  
よい……  
良い……  
赦す……

ふ



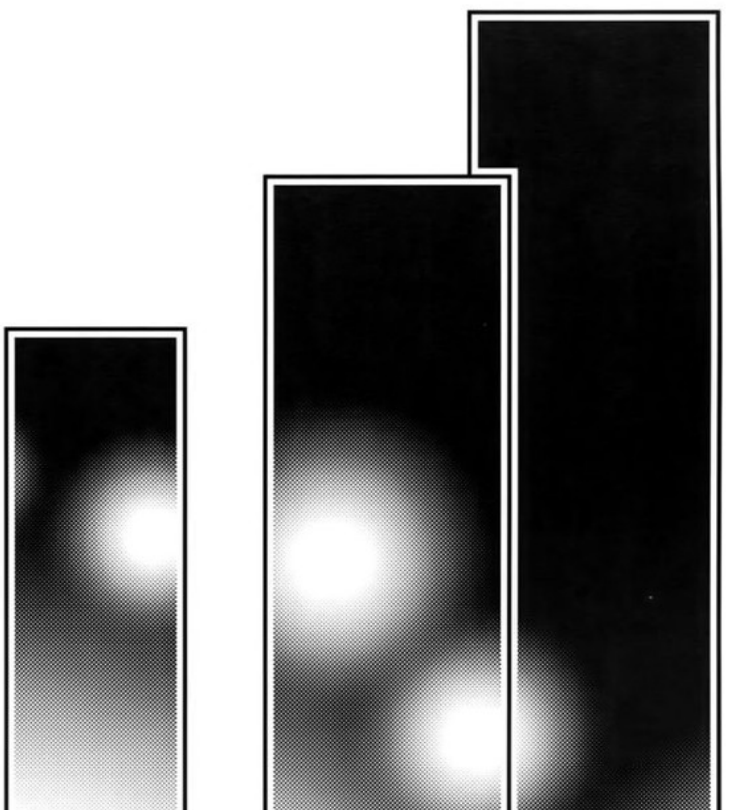
今宵は……  
好きにせよ  
……黄金の

すい……

そなた故と  
心得よ



7611126...







せつこ半白の  
感覚が無いのだが

トリガリガリよ

全田ナカ  
トコナカ  
真ん中ナカ

奇遇だな  
我もだ……



身体は言う事を  
きかぬのに  
頭の中ではまだ熱が  
猛っておるわ……

……陽が昇りきるまでに  
香が消えれば良いが

昨夜は

何と言う  
代物だ……

大賢のには相應の  
代償を支払って  
やらねばな



貴様の  
好きにせよ

それにしても……

貴様初物にしては  
飲み込みも  
早く良い身体だ

それだけこれからが  
愉しみと言う事だ

早すぎる位よ

何もせぬ  
暴れるな

あ……ッこれ



言わぬわ

言わつもりは  
無かるう……な

言……さま……  
未……か……  
つ……ま……ぬ……など

この様な姿  
そなた以外には  
見せられぬ……

はあ

過程はどうあれ  
良い身体に  
良い声であった

ちゅっ

愛いぞ  
太陽の……

すい  
すい

うっ

む？

当然であろう  
この花の熟れた香り

他のものには  
毒よ

……そなたの  
香りは甘すぎる



## 香の偽証

二人の行為とその後が偽証であるかないか。

既に来上らなっている二人というの好きなのですがそれ以上に

お初な二人設定が好きなのでお初我余が本当に好きです。

何が好きかって余に関しては生前に同性との経験があったのかなかったのかとか

200近くの子を成した男が器側であるだとか、ましてその相手が

1000も年上のまごうことなき「神」の血を受け継ぐ「人」の最たる男だとか

余の現界年齢が推定17前後である事とか。

我に関してはそもそも総てを味わっている男であるとか、故に器が何を注げば

喜ぶかとうに識っているからこそ余に一から教える、または余が器の経験が

あったとしても「それがなかった事になる」程に悦ばせる事が可能なのではとか

互いに太陽加護がある事とかとにかくそう言った大前提をどうまとめるかと言う

部分が凄く楽しいです。

それに加えて神の酒や宵に酔ってにも書いたように対外的な作用で

感情や理性を抑えきれなくなる、最高だと思います。

…と言ってもお初に至る部分はどうしても説明的になり、長くなったり

ページの都合上難しかったりとはしますが……。

古代埃及に於いて性行為は他の土地と比べてもかなり記号化された

生活にも信仰にも無くてはならない神性的かつ身近なものと記録されています。

よって余、と言うよりファラオにとってそれだけ自身にも大切な事なのでは

と解釈しており、余が今まで築き上げてきた価値観倫理観を余自身がとても

重要視しているのでは…と。

まあ我にとってはそんな事関係無いですし余は余、それ以上でもそれ以下でも

無く、かと言って彼の存在をないがしろにするような下品な感情もありません。

ただ同盟相手を味わいたいし、自身で悦ばせてみたい。

する事は同じでもする目的とその結果が違うのでどうにも至るまでが

困難そうな二人ではあります。

個人的に、ですが我は余を味わったとしても決して飽きる事はないと思っています。



## しじまに秘めた陽、迎えたる眩き黄金



彼の玉はファラオであり、赦す者では無かった。









ああッー!!!  
何て事を……ッ

い……  
今治療をッ



あぐ……

うぐ

あ……

うううう……ッ



この、程度……

だ……

大丈夫……です



……ああ

おい



どうか話さないで  
お願いします……ッ

い  
良い……ので

私の事は……

は……  
は……

王を……



厄介な事になるな

うわッ

ほお!!

数値が  
振り切れた!

雑種

まっずい……!

魔力の膨張なんて  
ものじゃない

これじゃ……

嘶家よ  
お前の全魔力

目を瞑っておけ  
見れば灼けるぞ

その身が  
千切れたとしても  
護りの結界へと  
注ぎ続けよ

まさに  
神による  
大いなる膺懲だ  
ようちやう

膺懲: 征伐する事・反乱を打ち懲らしめる事

よ  
良  
い  
か

僅か瞬きの刹那すら  
気を緩める事は  
赦さぬと思え

オジマン  
ディアス殿……?

オジマンディアス殿の  
魔力が膨張して……?

大地が震えている  
一体何が……

ファラオの  
聖なる御体を  
汚したな





はあッ

目が破裂しそうに熱い

呼吸が出来ない

喉が灼ける

はあッ

指の先から全身が  
千切れていくみたいだ



あああッ

怖い

怖い怖い怖い

はあッ

怖い



ゴッ

ゴッ

はあッ



これよりは貴方が  
視ま<sup>よ</sup>ずとも良い物語……



あれがああの王様  
だなんて……

マスター



はあッ

はあッ

どうか目を瞑り  
ご自分の事だけを  
考えて



岩塊がこぼらげ

大地が裂けた…ッ  
魔力放出  
だけで…!!



とん…



我らの事など  
もう頭に無いかッ!!



見境無しめッ



ほちち



とん

とん

地は割れ熔け  
犬気が  
爛れている……



これがあの御方の  
秘めじお力……  
いや……こんなもの  
僅かな片鱗でしか  
無い……

オジマンディアス殿ッ!!!



このままでは私達はおろか  
主のお身体が  
耐えられない……ッ

お止め下さッ!!!



どうか……どうかお心を  
お鎮め下さい

ニトクリス殿は  
ご無事ですッ

ですから……ッ  
ですから!!!

はあ

はあッ

はー

はー

はー



止めておけ  
余計に息を吸うな  
喉が灼けるだけだぞ

ああ成って  
しまえば最早強制力の無い  
カルデアの令呪も  
効きはせぬ

雑種を  
眠らせた采配

最良き  
判断であったぞ  
嘶家

此処より離れば  
身を焦がされ  
かと言ってあやつに  
声は届かぬ

……尤もこの一帯を  
焼き尽くし  
あれの気が晴れるのを  
待ってもいられぬがな





それこそ  
彼の王の  
忌むべき結果では  
ありませんか!?

無理をすれば  
霊核に傷がつかます

でも魔力が全く  
足りていませんッ

身体の復元は  
終わりました……

ニトクリスさん

もう……  
大丈夫です……

はあ

はあ……

いいえ……

いいえッ

あの御方の  
尤も厭う姿を  
晒させてしまった

これは私の未熟さが  
招いた  
ファラオへの大逆であり  
許し難き大罪です

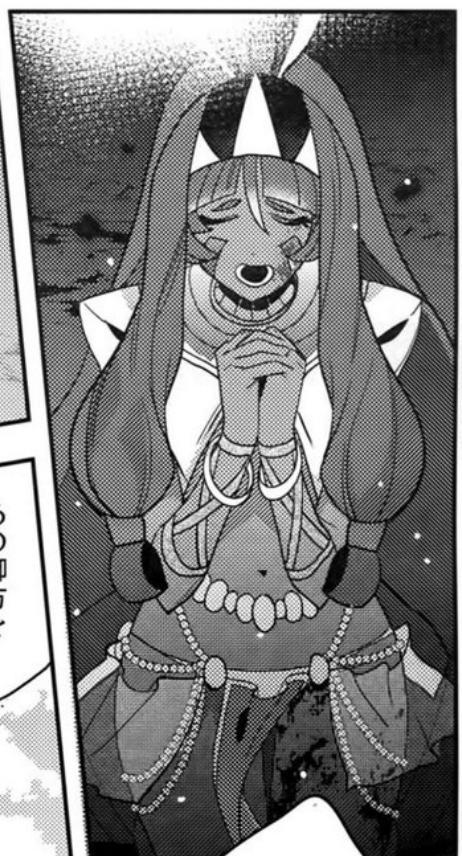


私が全てを背負い  
王の安寧を  
願わなくてはなりません

ご自身の血に  
塗れながらも  
彼の王の御身を  
案じる貴方は何と  
美しい事か

牛若丸さん……ッ

いえ  
私が参ります



私は……  
何と愚かで弱い……ッ

あの御方を  
止める術は  
力づく以外あり  
得ないでしょう

ひゅどらの毒が  
御身体に残る貴方では  
一呼吸も保たない





鬼神の  
ような  
御姿だ

……!!  
牛若丸さん……!!



凄いな……



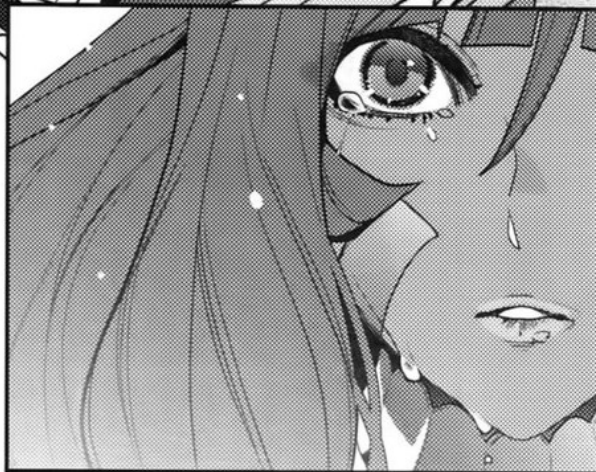
それ程までに  
愛しておられるのですね

あなた  
埃及を



天狗の兵法  
とくとご覧あれ

さあ  
参りますよ





僅かでも気を抜けば  
霊基ならず  
魂までもが  
灰と化するだろう



燕であつても  
灼ける空の前では  
無力



否ッ

この稀代の鬼才傑物  
源義経も  
此れまでとなるか



なればそれすらも  
この牛若丸  
跳び越えて  
みせましようッ



頼みました  
うるくの王  
英雄王と賢王





私の姿を  
認識した上で  
躊躇がまるで無い

見えるもの  
全てが対敵と  
成っているのか

この魔力規模では  
我が奥義が一つ  
自在天眼であつても  
逃れ切れぬな…



メセケテット  
闇夜の太陽船の  
光熱を足場にするか

足と引き換えに  
中々の曲芸を見せる



手ごころなぞ  
考えるでないぞ



おい





ア  
ニ  
ニ

キ  
ニ  
チ

お耳汚しを……

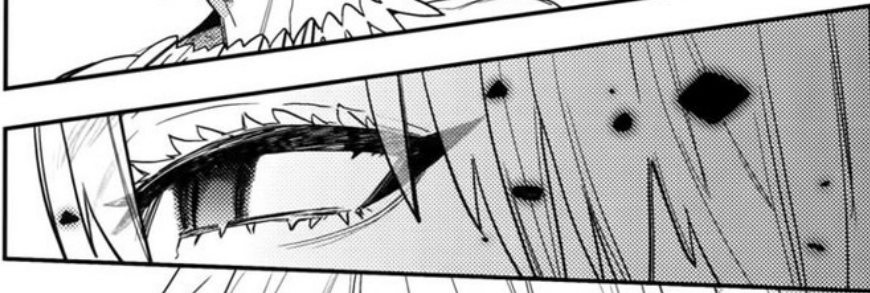
キ  
ニ  
チ

魔力を結界に  
割いていますので  
僅かな時間ですが…

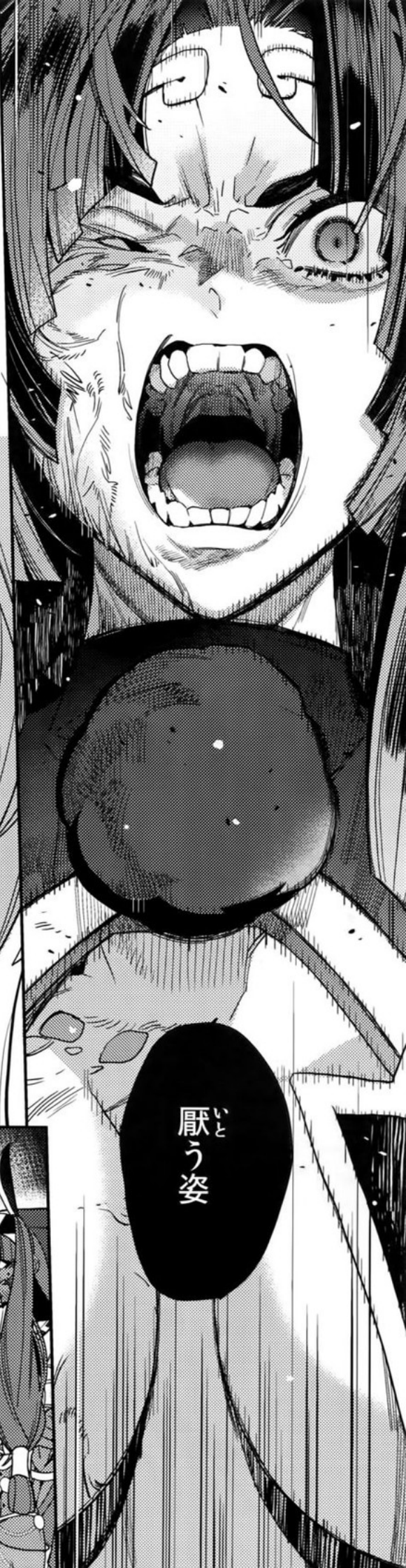
………  
キ  
ニ  
チ



恐れる姿



我はそうは  
思わんがな



いと  
厭う姿



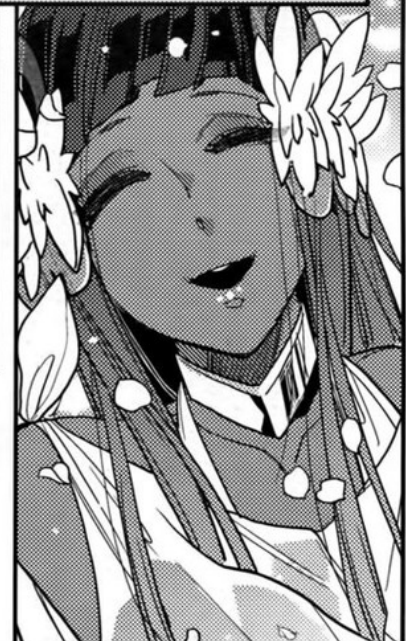
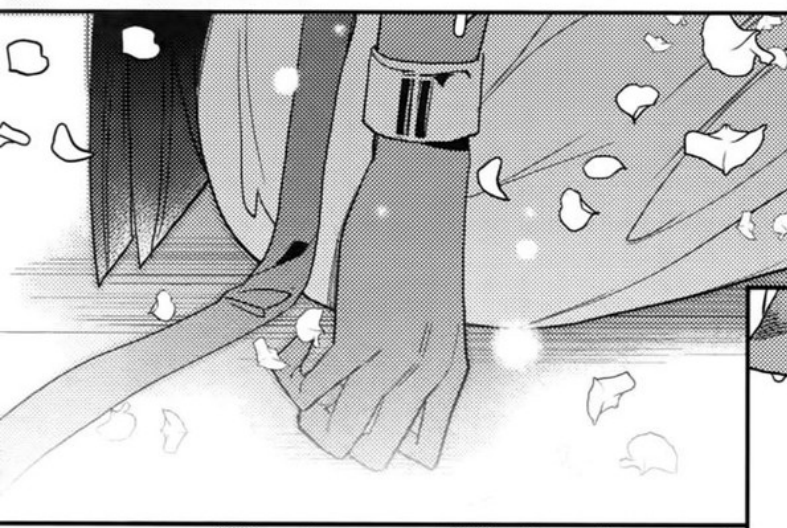
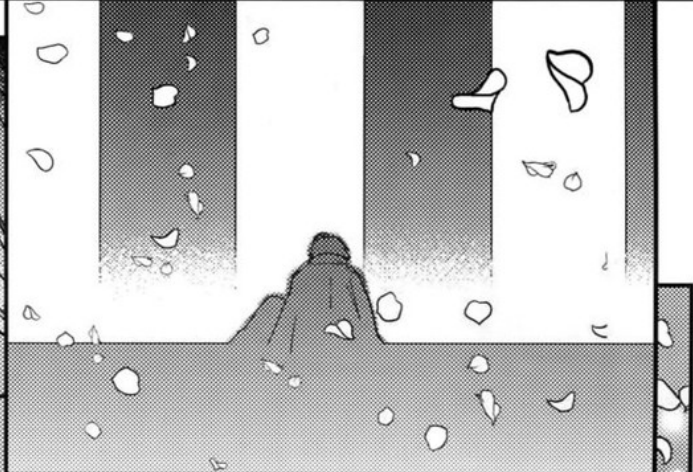
母は母の為に涙を流す事を赦さなかった

美しい  
すがた  
貌だ

妻は妻の為に涙を流す事を願わなかった



どれ程強く抱きしめても  
魂を繋ぎ止める事は出来ず





自身を呪った



愛する時も  
涙を流す時も



王は国  
言葉は法  
国は民あって存在し  
民は国を映す

総ては埃及エジプトの為であり  
そうでなくては成らなかつた

故に神と成った



神々の頂に余が降臨し  
余が民を愛し  
余が地上を愛す

それで良い

それが良い

ファラオに仇なす者共

エジプトを脅かす者共

王を陥れる者共

神に背く者共

余の愛を奪う者共

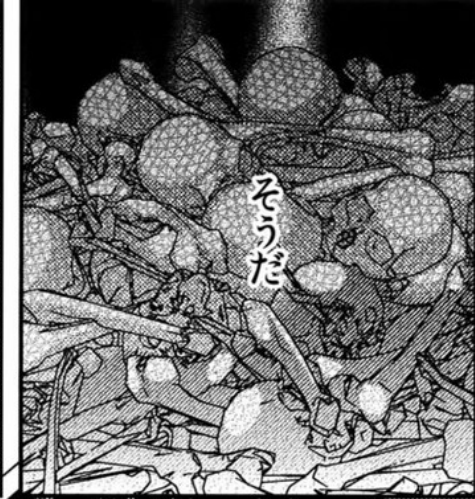
総てに等しく

余が裁定を下す

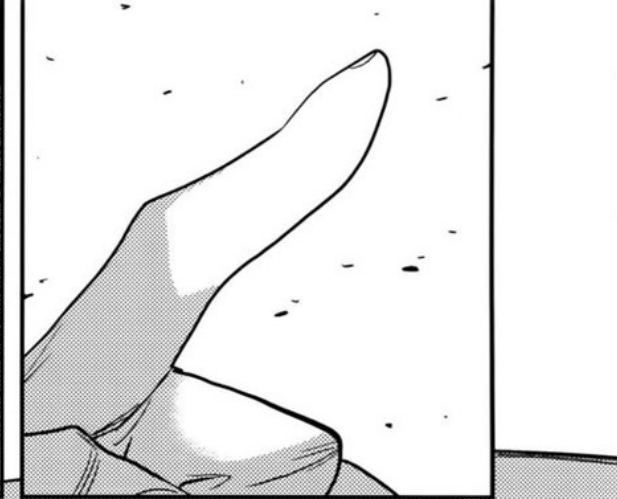
そうだから、余は――



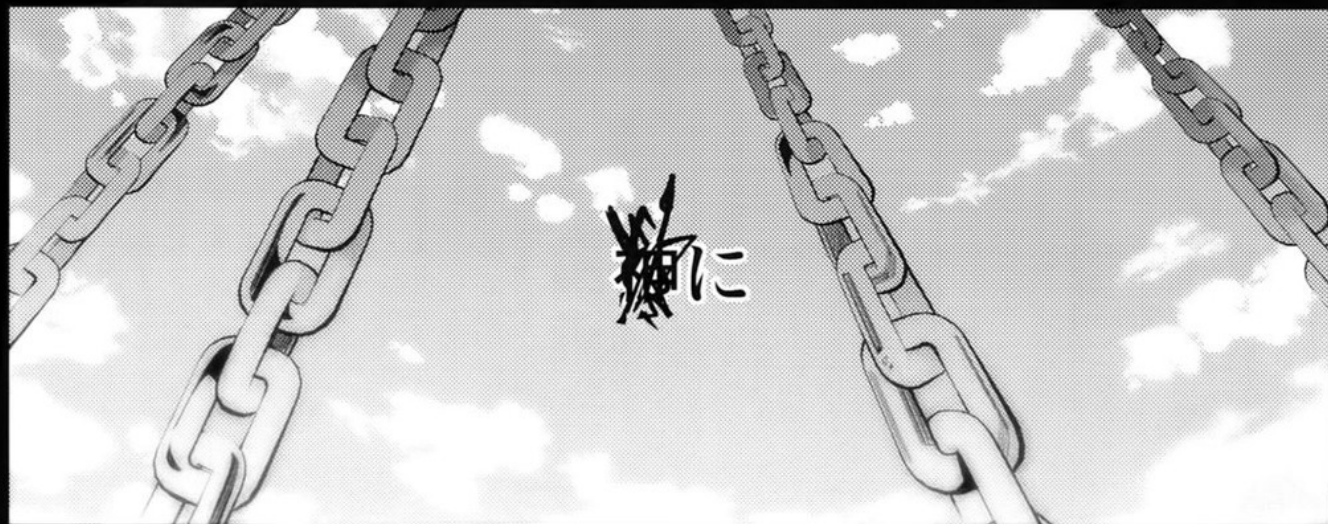
あれは



そうだ

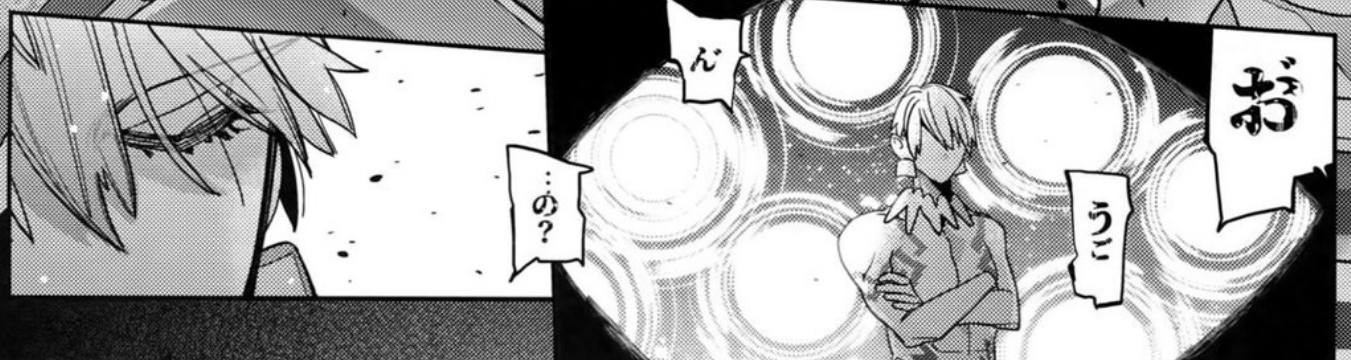


あの時に



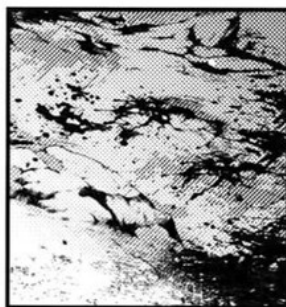
癩に

我ら人と同じモノ成らず





余は何を……？



あ……



彼は？



……レイシフトから  
戻ってすぐに  
ご自身のお部屋に……



人格あるが  
故の暴走



サーヴァントには  
生前の  
人格だけでなく

本人の強い想いや  
時には人々が  
願う想う姿すらも  
反映されたり

並外れて強くて  
人間性溢れた人格で  
形成されている

実質私達はね  
私達自身であって私達  
そのものではないんだ

サーヴァントとは  
そう言うもの  
なんだよ



だから彼のような  
感情的暴走は  
何かがきっかけで  
今後もあるかも  
知れないって事

強すぎる  
力を制御するのは  
マスター  
魔術師の役割だけどね

彼故の結果が  
起こるべくして  
起こったんだ

わ……ッ

私が未熟で  
弱いばかりに…  
王の逆鱗に触れ  
怒りを露わに  
させてしまいました

私には  
それだけじゃ  
ないように思う

むしろ  
ああって  
しまった自分に…

どう償えば  
良いか…

そうかな？

事の引き金は  
貴方だけど

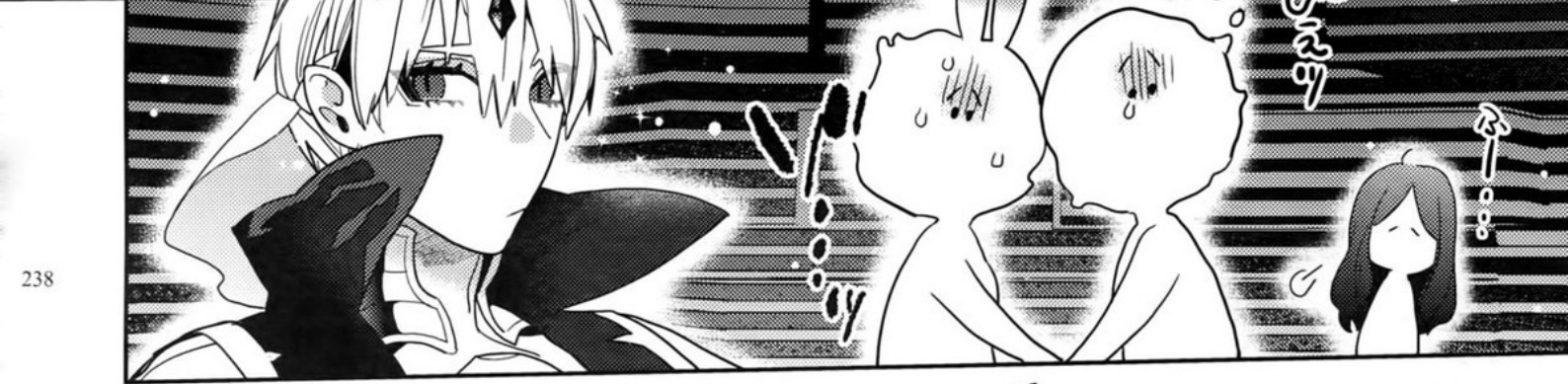
やめよ狂人

それ以上はあれへの  
侮辱とする

その過ぎた不敬  
我が代わりに  
裁いてやつても構わんぞ

貴様らの弱さなど  
とうに周知の上

あれの  
怒りも尤もと思え



ゆめ  
忘れるでないぞ



ただがな  
なればこそ己の限界を  
己で勝手に見定めるな

それを考えれば  
自ずとすべき事は  
理解するであろう



ほー……暴君が  
あんな事  
言うなんてね

誰の為だか

マスターの為?

未熟な女王様の為?

私が彼らを

フォロー

しやすいように?

それとも同盟者の為?

やれやれ

太陽王は誰よりも  
愛する者の  
死を見てきた

王であり神である  
自分の前で命が  
果てる事を救さない

赦せないんだ

畏れられる  
事はあつても  
恐れられてはぢけな

だから?

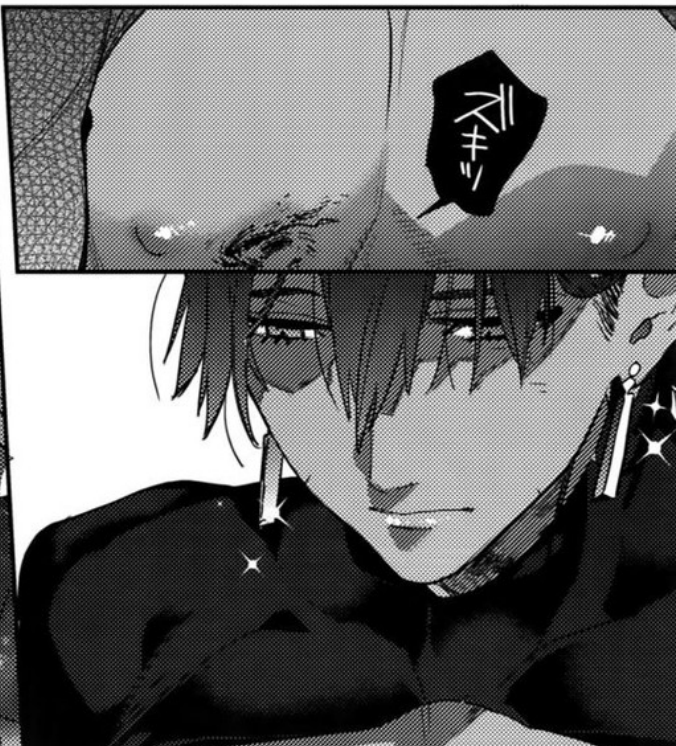
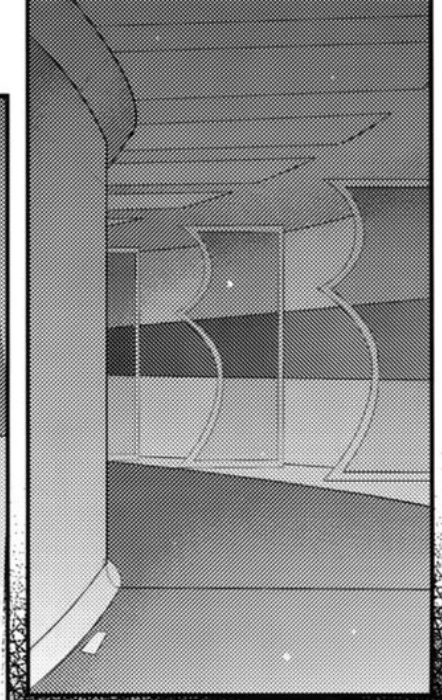
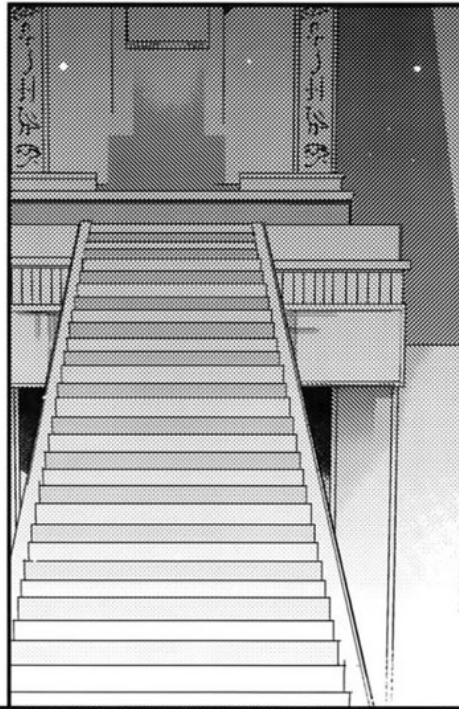
其処には  
彼の愛が  
在るのだから

カデシユの戦いを  
経て彼はやがて  
本来の神々すらも  
見下し自身を神とした

良い勉強に  
なったね

君、強く成り給えよ







……

……

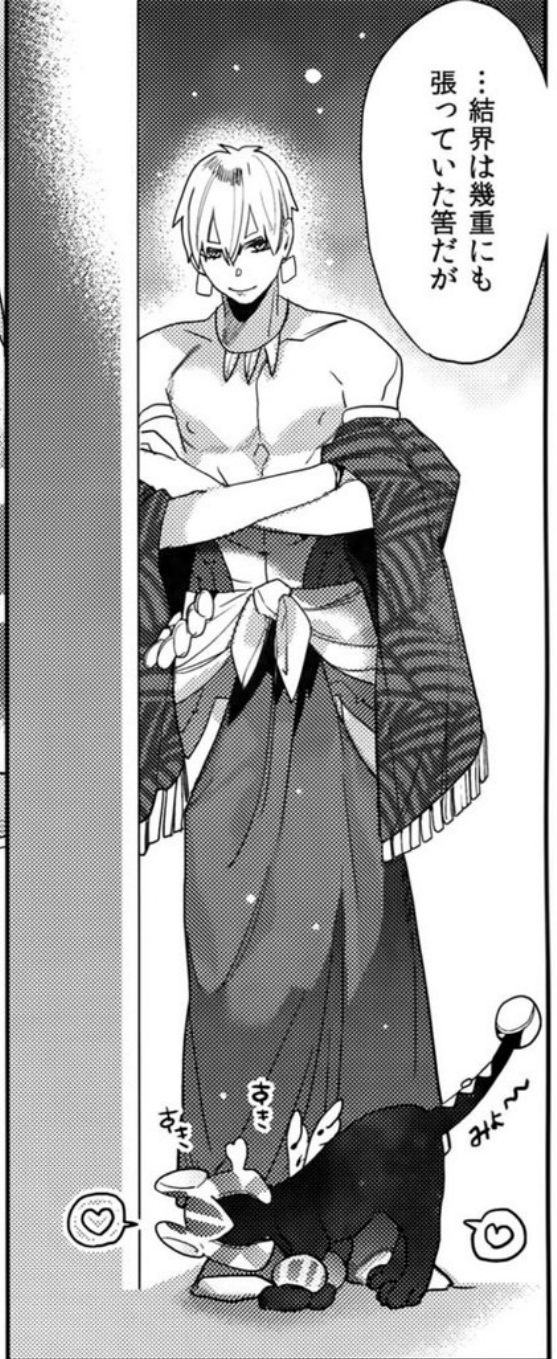


スフィンクス  
見張りの獣共を  
出しても  
構わんがな

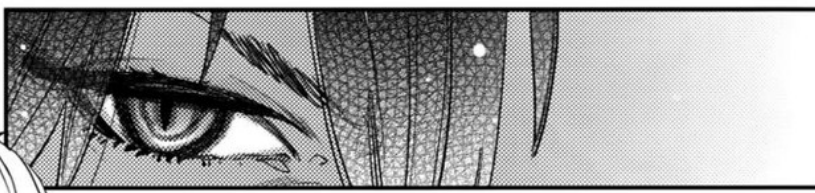
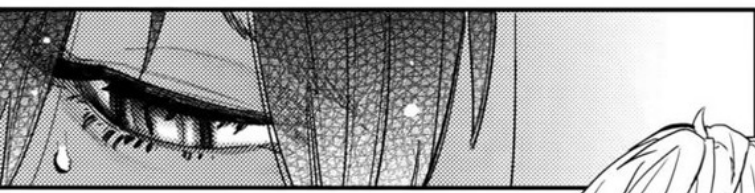
まともに魔力供給も  
狂人の処置も受けぬ  
今の貴様に

我をどうにか出来る  
思っているのであれば  
好きにせよ

答える必要は  
あるか？



……結界は幾重にも  
張っていた筈だが



……疾く去れ

今は貴様と  
交わす言葉すら  
惜しい

くはッ  
不敬な事よ

この我が態々  
足を運んで  
やったと言うに



神を謳っておきながら  
民より向けられる視線を  
恐れた腑抜け者の元に





貴様は自ら人の道<sup>キ</sup>を絶ち

自ら神と成り果てた



何を恐れる

余り我を呆れさせるなよ

何を後悔する

何を嘆く



すがた  
良き貌だ、とな

だがそれが我は  
気に入っている

その上地上を愛すと  
太陽を謳うとはな

神の中の王とは  
余りに多欲なものよ

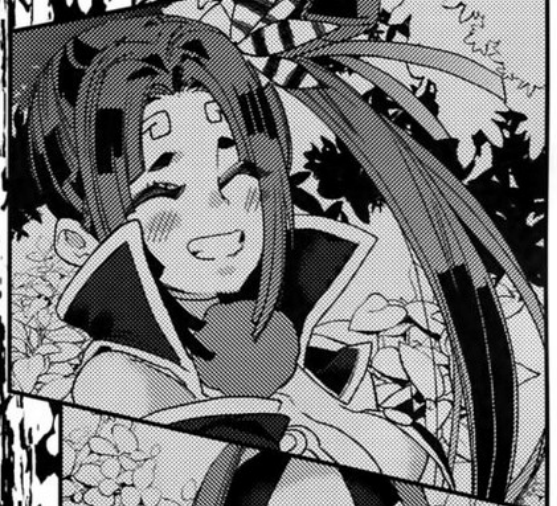


余…

余は…余の前で  
愛する者の  
死を赦せぬ…

なのに  
あやつらに余自身で  
死を思わせた…

余を見る瞳を  
あんなにも  
濁らせて  
しまったのだ…



下らぬ

我が子らと

変わらぬ愛すべき  
者共にあのような  
顔をさせるなど



己を唾棄せずには  
居られようか……ッ

それは  
弱きあやつらが  
矯める事ではないか

何あの程度で  
留まるのであれば  
それまでよ

※正す事、矯正する事

な…ッ

救うにも  
生かすにも値せぬ

我が裁定を  
下すまで



あやつ  
雑種らの事だ

此度の貴様程度  
些細で気にも止めぬ  
変わらぬ常そのものよ

しじまの果てに  
陽が沈み  
深き宵を迎え

そしてまた  
黄金を纏いし  
陽が昇るようにな

※静寂、物言ひとつしない事

そうは思わんか

オジマンデイアス  
太陽神の息子







ちが…うツ  
はあ

そ…は…



す…

お…お…



す…  
す…  
ん



す…

すり



はあ

売…れぬ…!!

せ…せぬツツ  
要らぬ…ツ

よ…よは  
…余は!

渴望るだろう  
魔力が



なれば  
する事など限られる

黄金の香が  
強…



澁んだ心地の  
ままでは  
休む事も出来まい?

あ



此度の件を  
今宵は思い…き、  
気を鎮め…

あ…  
んく

ちゅぼ

ちゅぼ

はあ  
あ…



甘い  
フィィ

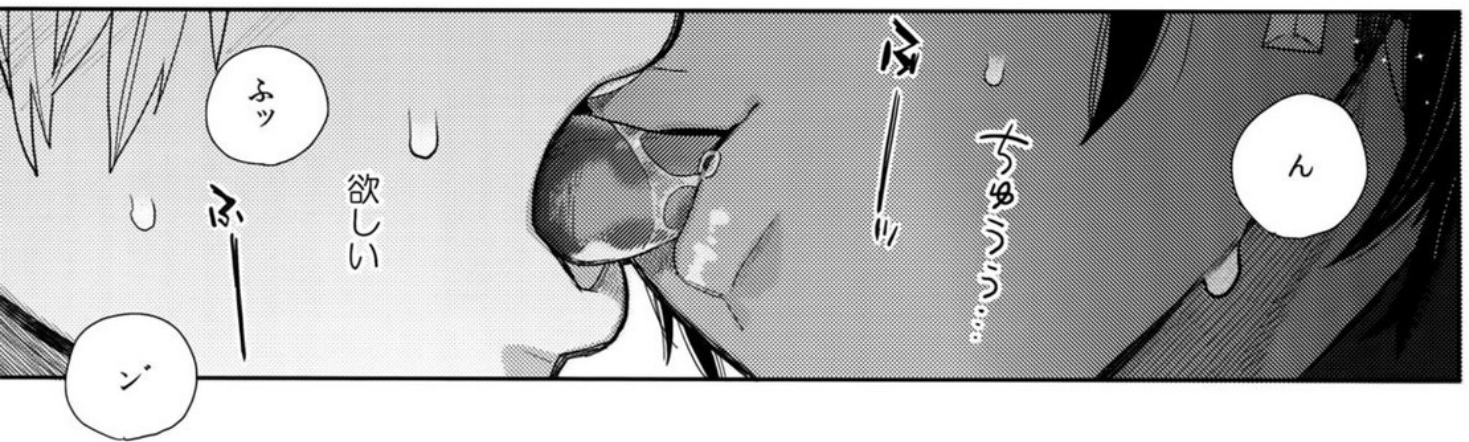
ん

ちゅぼ…

頭が灼ける

ちゅぼ

ん…



…黄金の…  
その…

一度湯浴みに…

ならぬ

びちちち  
びちちち

つめた…ッ  
何だ…ッ

我慢しろ

旧き聖者が  
使用っていた聖水だ  
傷に良く効く

貴様は  
気が昂ぶると  
濃い花が香る

今宵は  
それに血と汗が混じり  
毒にも近い堪らぬ  
甘さとなっているぞ

安心せよ

こちらには  
たっぷりと熱い  
香油を塗ってやる

人との縁を  
自ら絶ちながら

己の偉まじさを  
受け入れられずに  
健気に人を望む

何処までも  
人の子よ

さぞかし  
今のどやつの蜜は  
美味かるう



何を忠実様な  
物言いを…

※実直・真面目誠実な事

気付いて  
いないようだから  
教えてやるが

そなたも…ッ

ぬーっっっ

高揚すると…  
爛れた

ふッ

くほ…

甘い香り、  
…がする

悪性が  
香りとなって  
纏わりついてきたぞ

余の臥所に  
侵入ってから  
ずっとな…

それが  
大半の目的で  
あったのだろう

くはッ  
そうか…ッははッ

なれば貴様  
こうなると  
理解っていたのかッ



どちらが  
悪食よ  
なあ？太陽の



あの貴様の  
肚をかき混ぜて  
暴いたらどうなるか  
考えていたらどうにも  
堪らなくなった

ああ…  
佳いな

はッ

はあ…ッ



そんなに  
舐つてくれるな

余程待ちわびて  
いたのだな

だま…ッれ  
ギッ

だま…ッれ  
ギッ

あ…ッ

は…ッ



ねいッ  
ねいッ  
ねいッ

は...ッ  
は...ッ

あッ

うううううう

んげ  
んげ

は...ッ  
は...ッ

は...ッ  
は...ッ

ならぬぞ  
太陽の

逸物には  
触れるな

はな...せッ

肚で果てる

は...ッ  
は...ッ

は...ッ  
は...ッ

何を...  
黄金の...ッ

貴様に  
覚え込ませた  
男の顔を良く  
見ておけ



貴様を  
恐れぬ男の顔を

貴様を  
悦ばせる男の顔を

貴様を  
視る男の顔を

よおく

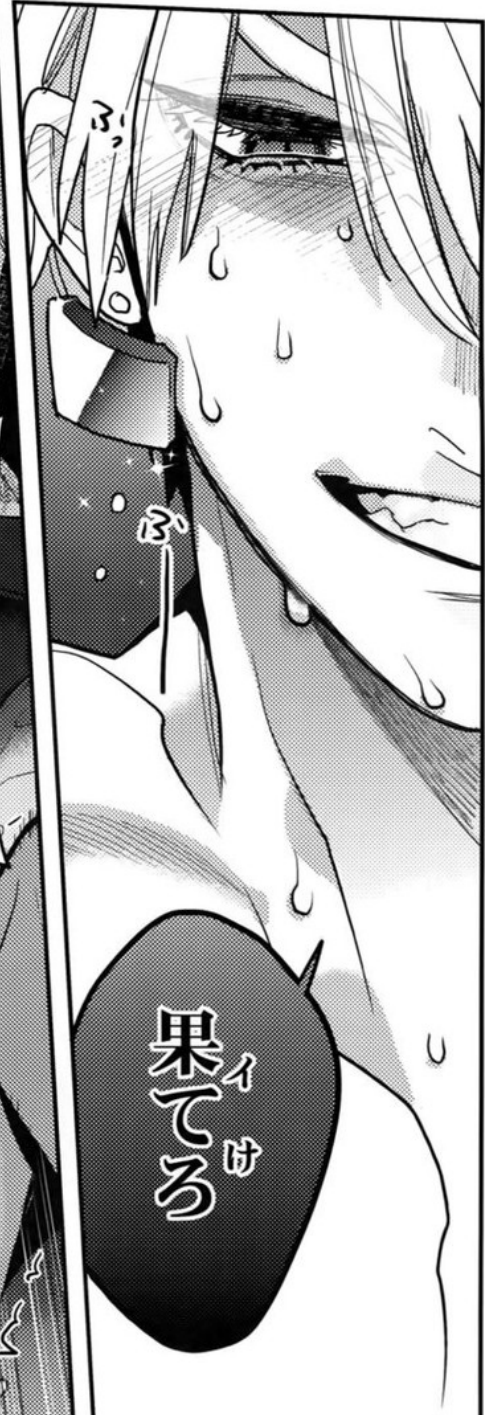
見ておけ



駄目だ！

駄目だ駄目だ駄目だ

ならぬ...



果てる



よしよし  
良く出来たな  
まだまだ  
好きなので  
興えてやるぞ



休ま...

はらぬ

ひええ





さすがに  
やりすぎたか

いや  
こわい

く...

く...



それが世の理  
摂理だ

それはお前とて  
例外ではない事を  
識らぬ訳でもないど  
言っ

くく

陽は沈むもの  
皆眠りにつき  
闇夜の中  
眩き光を待ちわびる



んん...

ん

今はお前も星と共に  
夢を見よ  
ラーメス

ムラ...

ムラ...

...いや...駄目だな



ムラ...

ムラ...

ムラ...

ムラ...

...いや...駄目だな



まためのお話を  
読んで下さいますか？

母さま

私の愛しい子

ラーメスはこの  
お話が  
とても好きですわ



はい  
母さま

神々に愛された王――



私も、そうなれ  
ますでしょうか  
母さま――





# 神王様

フェアオ・オシマンディアス



俺ももっともっと  
強くなって王様に  
相応しくなりますッ



私めがより強くなり  
王をお護り致しますッ



朝から  
騒がしいな

……くはッ

ははッ

ははははははッ

お前たち……

天空の女王は  
まだしも  
貴様の様な  
未熟な魔術師めが

余を扱うに  
相応しくならんと  
宣うか

ひん……!?

そ  
いえそそそそ  
そそ……ええ……ッ  
そう言うう  
意味では……  
ああれ……どうとる……??

良いッツツ

良いぞ  
赦すッ



なれば進め  
陽を見続けよ  
魔術師よ

空を飛び続けよ  
天空の女王よ

余につまらぬ姿を  
見せぬよう日々  
精進せよ

なれば  
お供しますよ  
同盟者

じゃあ早速編成の  
見直しからするぞ



……なッ

うすっ!!!

何と  
健やかな事か…

ぶは  
ツツ  
ツツ

わ…嗤うな…  
不敬であるぞ…

よりによって  
何だその  
例えとは…ッ

それ見ろ  
貴様が思い悩む隙すら  
無かったではないか

見当違いの  
謝罪でもされると  
思ったがな…  
成る程強い者共だ

黄金の

ん？  
何だ

幼少の頃  
母によく読み聞かされた  
旧き異郷の物語があった

今まで思い出す事も  
余り無かったのがな

傲慢で  
利己的で  
暴虐の男


人で在るが故に  
神で在るが故に

淀みの境界にて  
酷く苦しみ悩んだ男

果てぬ  
輝きの英雄譚

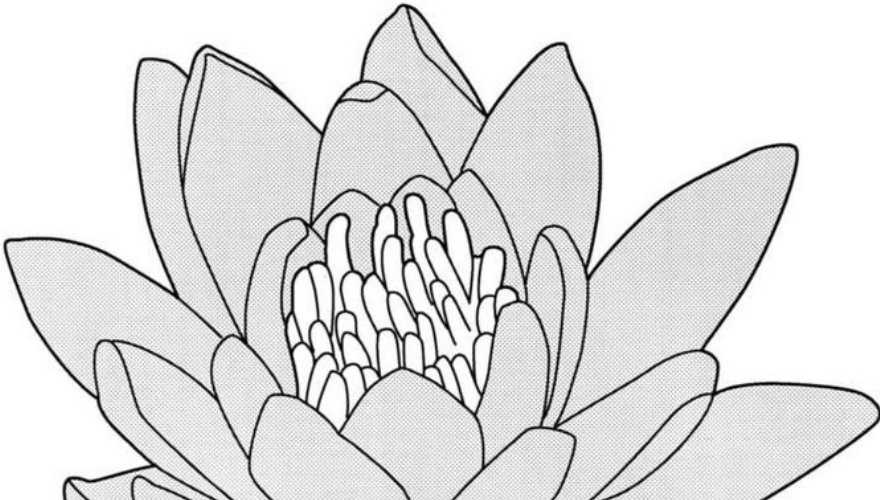
魂を語る  
はじまりの男





余はその夢物語が  
好きだった

彼の王こそ総てを觀た、総てを味わい、総てを識る者、創造に他ならない



## しじまに秘めた陽、迎えたる眩き黄金

王となるべく産まれた彼。

神、への羨望は一体何時、何故、どのように育まれたのでしょうか。  
遺された詩や当時の数少ない記録からこうであろうああであろうと  
数千年経った今考える事は出来ませんが彼の王の心中はこの先  
何年何百何千年経ってもわからないままなのだと思います。

古代埃及に於いて神との同一化がひとつ重要な信仰だったと  
記録されています。

そのような信仰下齢50を迎えた余は「神々すらも見下し自らが神の中の王」  
であり、神々の所有という傲慢すらも民らに広めました。

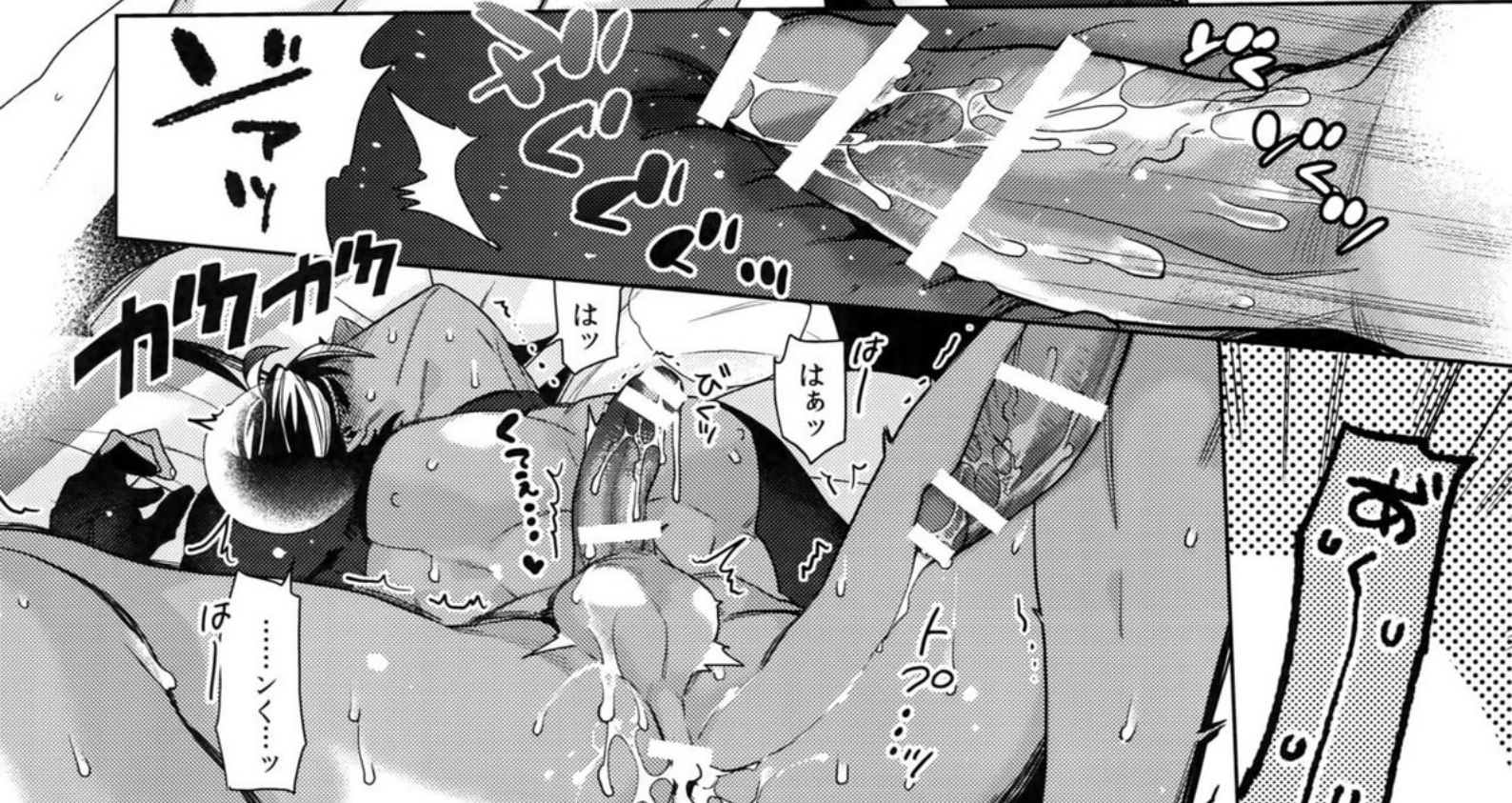
その真意は一体何だったのか。

私には人の望みである不死や生まれ持つての王者の基質と言うものが  
ぜ～～んぜん理解も望みも無いので例え真意を教えられたとしても  
ぜ～～んぜん理解出来ないと思いますが  
「そこに至る精神」と言うものは何よりも尊ぶべきものだと思います。

当然記録には悪い部分も残されていますので奪うものである余の  
側面もあつての事だと思いますが、やっぱり永劫を意味する神に成る事で  
地上への愛を示したかった、と言う自己解釈が強いです。  
人で在らざる事を望んだのに人を神としてではなく人として愛してしまう  
どこまでいっても、人が根底にある余、凄く好きです。  
そんな余を我は嘲笑う事も無くつくづく「よいもの」として見てて欲しいです。

人に下った我と神に成った余、もう何十回も何百回も言いますが  
そこに優劣は無くとも果ての無い差があると思います。







はあ  
余の身体の事を  
考えぬか……!

231

231

たごきさの

たごきさの

♡  
ちゅ♡ ちゅ♡

毎夜毎夜  
加減を識らぬ  
奴め……ッ

おの……れ

……ッ  
お……

至極の悦楽に  
塗れたであろうか?

??

我は

貴様の一番好い処を  
一番好い時に  
一番好くなるよう  
触れてやった筈だが……

HAPPY OREYO~

余は……

余は……

うた……

全く以て  
その通り。

こ…これ  
黄金の…ッ

ニギ

ニギ

そなた埃落としに  
付き合う  
などと言っておいて

ん…?

すい  
すい

何を言うかこの我が  
手ずから清めてやろうと  
言うに不敬な

淫らな事を  
考えておろう！  
ハへ

……それに

あッ!!

丹念に洗ってやってる  
だけであろう？

何を声を  
あげている  
太陽の

ん…ッ  
貴様…!

何かを期待しているのは  
こちらでは無かるうか？

……そ…ッ

そなた、こそ…  
余の玉体に擦り付けてる  
ソレは…ッ

…ッ  
何だ…ッ  
黄金の…ッ

黄金の…ッ



無用な矜持など  
今更示さぬ...ッ

黄金の...ッ

う...  
おのれ...太陽の...ッ

は、はよう...ッ  
ソレを余に収めぬか...ッ

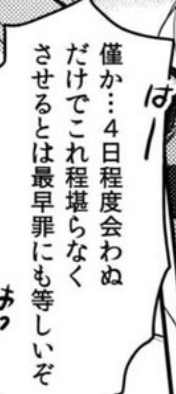


余の肚に余す事無く  
収まる  
黄金の冷たき熱...

ああ...これだ  
こやつこの肚の心地良さ



ほう  
そなたこそ...ッ  
余に求めさせるなど  
...ああッもう良いッ  
口上など要らぬ!



僅か...4日程度会わぬ  
だけでこれ程堪らなく  
させるとは最早罪にも等しいぞ



HAPPY OREYO~





何だ貴様…  
痛みがあったのか  
何故早く言わぬ

はあ



肚の奥に触れられると  
その度に果てかねん…



そなたの貌が  
余の肚と…

合…うのでな…  
その…



HAPPY OREYO~

〜キキママは〜



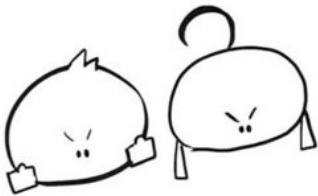
良いのか？

……おのれ……ッ  
覚えておれよ……ッ

貴様の濡れた嬌声が  
漏れているぞ

外の奴らに  
聞こえるやも  
知れんな？

HAPPY  
OREYO~





# 指令紋章

天  
の  
楔



ひくひく

デ  
イ



はー

はー

あ  
あ



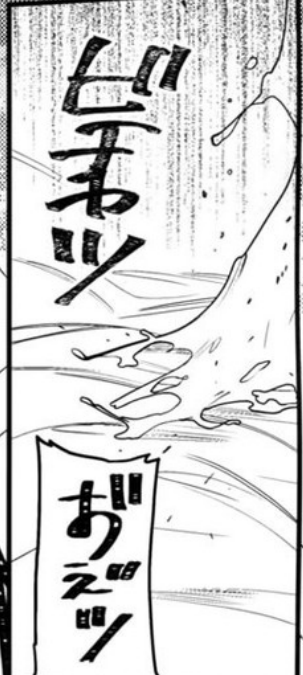
がく  
がく

はー

あ  
あッ

うッ

は  
ッ

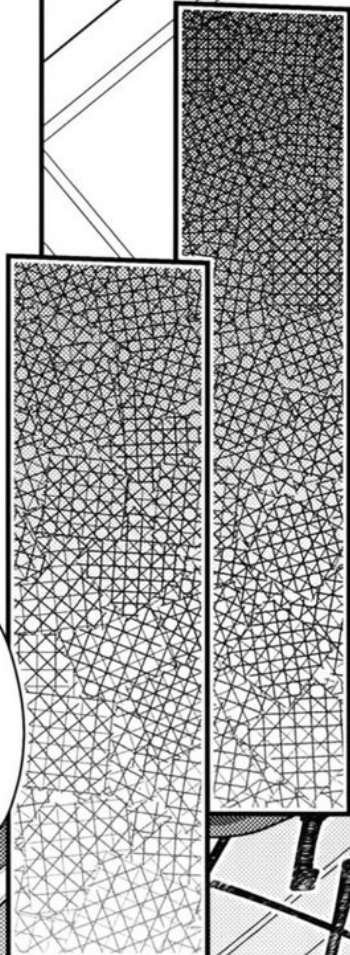


は  
もッ

が  
えッ



これは  
駄目だ



息が  
出来ぬ

身体が  
灼ける……ッ

はッ

予想通りの結果よな狂人め

使えるアテが乏しい事を知りながら己の悪質な興味に抗えなかったか

わ…分かってきたよ分かってきたとも

解析した霊基の一部分を開放して新たな配列を組み込んで質を向上させる…

霊基再臨アルゴリズムを応用すればサーヴァント固有の特性だつて構想は可能だと証明済みだ

大きな川にお茶を一杯流し込んだってすぐに馴染むものだろうか？

そうさ！

私の計算式に何の間違いも狂いは無いんだッ

ただ…

貴方の霊基が余りにも強すぎたつてだけさ……

何を至極当然な事を今更！

ふははははははッ  
「おわのギ神  
つよまぎ」

貴方の性質であるサーヴァントへの攻撃性

神代を穿つ楔の力を外部へ具現化出来ればと思つたんだ



この一枚の中には  
貴方の霊基情報の  
写しが量子として  
詰まっている

その酔狂な思考は  
褒めたものよ  
故に我は赦したのだぞ

欠片…  
そう……本当に  
極々僅かな欠片程度の  
情報だけど



それでもこれを組み込めば  
霊基が馴染む前に  
特性が自身へと  
返ってくるだろう

ここまで来ると毒…  
いや呪いか？

それに耐えられる  
霊基はそれこそ  
数え上げる程度さ



あッ

ほいッ

そこまで理解つて  
いるのであれば  
簡単では無いか



気を失うな  
それだけ巡りが  
悪くなり  
苦しみが増すぞ

余を謀つ…ッ

こちらから  
私の魔力を流して  
やる  
少しは  
和らぐ筈だ



少しは  
大人しくしてろッ!!!!

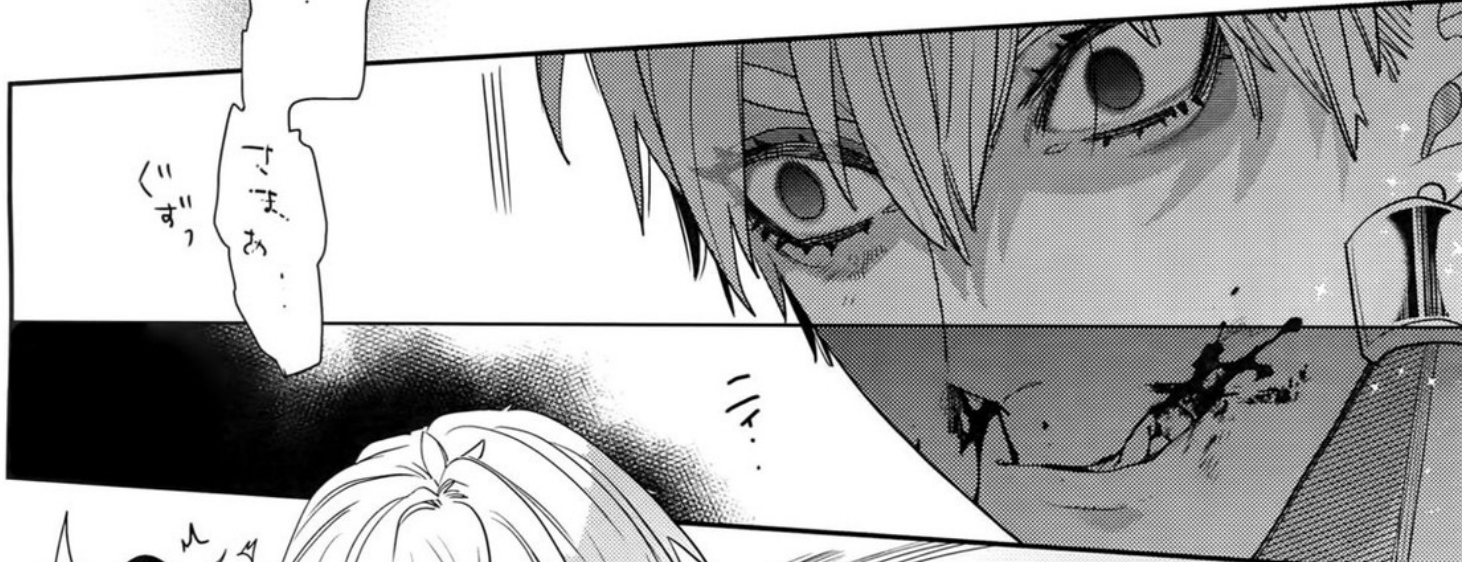


聞こえて  
おらずとも  
意識は  
保っておけよ




く...ま...  
ぐりず

...ア...ア...



ふさふさ

はく



よく  
頑張ったな  
ラーメス

今宵、此奴は

私のモノを肚に宿した。

■司令紋章

ざくっと描きたいものを描いてしまったので  
一つの話でしっかりと作りたいです。





# 我余

---

## :Re

神の酒

吹雪の夜に

深き湖沼へと至る食欲のソルナ

宵に酔いて名を紡ぐ

無花果と魚の骨とファイユームの赤ワイン

九天の果てに望むは金色の夢

香の偽証

しじまに秘めた陽、迎えたる眩き黄金

2019/02/24  
賢工製版 様

Enio/NATO  
eni0.nat000@gmail.com

Twitter : @sioopao\_7\_10  
pixiv : 166896



メールフォームへと繋がります。  
感想ご意見等頂けたら嬉しいです。

転載転売の一切をご遠慮頂けますようお願い致します。

我余:Re

Fate/Grand Order

GILGAMESH

OZYMANDIAS

Enio NATO